

アジアと女性解放

Asian Women's Liberation

アジアの女たちの会

連絡先・横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘112
県住公社147・五島昌子 400円

特集

続・買春観光を許すな！

——アジアからの告発と日本の女の状況——

買春観光は南北問題である

アジアから見る

マレーシアの観光公害・済州島観光開
発・台湾の国際的花街・タイの観光年・
フィリピンのホスピタリティーガール・
インドネシアで

アンケート調査

買春観光を生み出す意識——怒れない
日本の女たち

女大学 沖縄の売春・売防法制定



No.8

1980.6

女性差別・民族抑圧からの解放をめざして！

女性の人権を踏みにじる買春観光を許すな！

買春観光に抗議するアジアの人々と連帯しよう！

恥を知れ！買春観光にくり出す日本の男たち！

一九七〇年代に入って伸びはじめた日本人男性の海外買春旅行は、今日ますます数を増し、アジアの人々から「市民の服を着た帝国軍隊」(フィリピン・コンスタンチノ教授)と告発されながらも、飽くことなき性の侵略をくり返している。韓国・台湾・タイ・フィリピン等に加え、最近では、ネパール・スリランカなどへも買春地帯は急速にその範囲を広げている。

一九七三年、日本人男性のキーセン観光に対する韓国女性の怒りの声がかきつけとなり、日本の女性たちも買春観光反対運動に結集した。それから七年――。私たち「アジアの女性たちの会」は機関誌二号「買春観光を許すな！」の発行を始め、「女大学」での連続講座、旅行会社への抗議、アンケート調査などを通して、買春観光を告発してきた。

国際観光旅行は明らかに南北問題であり、先進国から開発途上国への、あるいは、旧植民統治国から新興国への旅行者の大きな流れはあっても、その逆はない。しかも、観光は先進国からの経済侵略と一体であり、第三世界では、外貨と引き替えに、文化、社会、自然環境破壊なども引き起こしている。

とくに買春観光は、日本と他のアジアの国々とのゆがんだ政治・経済関係の上に成り立っている。日本企業が、アジアの女性を低賃金労働力として、苛酷な搾取をして得た経済力を札束に替え、それをふところに日本の男性が観光客となつてアジアの女性に群がる。さらに、日本の資本はアジアの女性を商品とする観光産業にも進出し、今や、観光客としての「買い手」と、観光業者としての「売り手」という両面で、アジアの女性の心身を収奪して、人権を侵害している。

かを問わず、また、男女の平等を基礎として、婦人が認識し、享受し又は行使することを害し又は無効とする効果又は目的を有するものをいう」とある。また第6条には「締約国は、あらゆる形態の婦人の売買及び婦人の売春からの搾取を禁止するためのすべての適当な措置(立法を含む。)をとる。」とあり、性差別・売春の否定をうたっている。

受け入れ国の側では、タイが一九八〇年を「観光年」と制定し、観光(売春)促進計画により外貨獲得に力を入れ、一方、韓国も済州島の巨大な観光客誘致計画を進めている。これらアジアの国々は、厳しい軍事・独裁政権下にあり、国策としての観光開発を工業化促進の一翼とし、観光客のための治安維持を戒厳令存続の口実にしている。

かつて、「からゆきさん」が石炭船の船底深く身をひそめて渡ったアジアの国々から、女たちが今日観光ビザ片手にジェット機で日本に逆輸入されている。およそ一世紀をへだてた昔も今も、騙され搾取されるのは女たちである。その背後に仕送りを待つ貧しい家庭と近代化を目指す母国がある。

買春観光の構造を究明してゆくと、日本の歴史の中で不問に付された部分が浮き彫りにされてくる。そして、天皇制を頂点とする家制度と私有財産制度の下で、「娼婦性の故に惑わされる存在」という女を買う側の男の論理はまかり通って来た。それが買春の必要社会悪論として温存されたまま、戦後、買う側を不問に付す売春防止法(片罰法)になった。このザル法の故に、国内ではトルコ風呂の繁栄と、特に沖縄では、前近代的な「前借金」に苦しむ女たちを生み出している。

買春観光の横行は、まさに不問に付された買う側の論理を受け入れ、売春に生きる女たちを道徳的に非難する妻たちによって支えられている。それは、女を妻、娼婦、労働力の用途に応じ、分断し手段化して来た権力や制度こそ真の元凶であることに女自身が気づいていないからである。

アジアの女たちが自らの身売らねば暮してゆけない状況の中で、日々人権性を奪われている事を知って、それでもなお、同じアジアの女としての私たちが、男たちの理解ある妻・恋人・娘にとどまれるだろうか。

アジアからの告発の声が高まりつつある今こそ、買春観光を生み出す状況を見きわめ、その反対運動に向けて闘う力を結集しよう！！

一九八〇年六月

アジアの女性たちの会

婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約

この条約は、1979年12月18日第34回国連総会で採択された。賛成112, 反対1, 棄権13で採択され、日本も賛成票を投じている。

第1部、第1条には「適用上、「婦人に対する差別」とは、性に基づく差別排除又は制限であつて、政治的、経済的、社会的、文化的、市民的その他のいかなる分野においても、人権及び基本的自由を、婚姻をしているか否

買春観光は南北問題である

松井やより

「先進国の人々が、管理社会のストレスからの気晴らしのため、そして、工業化で破壊された自然環境を逃がれて、南の開發途上国に三つのS(SUN, SEA, SEX)を求めて観光にくる。しかし、こうした国際観光は第三世界に搾取と支配をもたらす」——マレーシアのペナンで開かれた環境会議で、イブリン・ホンさんは、第三世界の女性の立場で、国際観光に疑問を投げかけた。(1)

国際観光は大変な急成長産業である。この二十一年間に観光収入は八倍にふくれ上がり、世界貿易の中に占める割合は、値上がりした石油に比べて替わられるまでは、トップになっていた。(2) 一九六二年から七七年までの年平均成長率は、観光客数で七・八%、外貨収入は一三%も伸び、六二年に八千万人、七八億ドルの規模だったのが、七七年には、二億四千五百万人、五百億ドルもの産業になり、世界の貿易量の七%にも相当する。(3) 八〇年には三億人を超えるとも予想されている。

とりわけ、東南アジア(韓国、台湾を含む)への観光客の激増が目立ち、六〇年から七六年までに、十八倍にもふえて、世界の観光客の中に占めるシェアも、七〇年から七

五年の五年間で倍にもなった。国別では、香港、シンガポール、マレーシア、タイ、台湾の五カ国は七六年に年間百万人を超える外国人観光客を受け入れ(表I)韓国も、七八年には百万人を突破した。日本人観光客は韓国六十万、台湾四十万、フィリピン二十万、タイ十五万などトップを占めている国も少なくない。それは、東南アジアでこれほど観光が急膨脹したのはなぜか。第一に、先進工業国との南北格差が考えられる。GNPが一人当たり七千ドルにも達している(七九年)日本と、その十分の一の七百ドルにも満たない国々との経済力の途方もない格差……(4)

先進工業国の大衆の所得向上が海外旅行という新しい大衆レジャーを生み出したのである。(5)

「日常のわずらわしさや退屈さから逃がりたい」というのが海外観光に出かける基本的動機である。人工的な管理社会と化した先進国で、仕事の単調さに倦みあきるか、逆にモーター会社人間として追いつめられる男性たちが、破壊や汚染で魅力の奪われた国内観光地にあいそづかしして、遠い南の国々への旅に憧れるのである。

こうした先進工業国の大衆の願望

を実現させる技術の発達も見逃せない。数百人乗りのジャンボジェットなどの大量輸送手段、多国籍資本によるマンモスホテルチェーンやレジャー施設、そして、成田空港のような巨大空港が作られ、割安なパッケージツアーが大量販売されるようになった。日本でも七〇年代に入って、海外団体旅行は大衆化し、円高もあって、東北の農民でも、大阪の中小企業主でも、九州のサラリーマンでも、ふだん着で、ソウルや台北やマニラに旅行する時代になった。こうして、日本人海外旅行者は年間四百万人(七九年)にも達している。

一方、観光客を迎える側の第三世界では各国政府が競って観光振興に乗り出した。ゴムやバナナや鉄鉱石といった一次産品の輸出が振るわなくなつて、それに代る外貨獲得の手段として観光を国策として打ち出したのである。東南アジアの各国政府は、世界銀行など国際金融機関の援助も受けて、観光産業に補助金、低利融資、免税などあらゆる優遇措置を講じるようになり、各国の都市や観光地には、デラックスなホテルがこの数年間に続々オープンした。たとえば、フィリピン政府は、この二年間に、全国の公営住宅建設には千三百

万ドルしか出さなかったのに、マニラのホテル建設には五億ドルものローンを与えたという。(6)

しかも、外人観光客専用の国際ホテルは、大体先進国の航空会社などの外国資本で、たとえば、パンアメリカンのインターコンチネンタルホテルは五十三カ国に八十八のホテルを持ち、東南アジアでは、バンコク、ジャカルタ、バリ、シンガポール、マニラ、香港などにある。トランスワイルド系のヒルトンホテルは、台北、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、シンガポールなどに作られている。日本の資本も負けじと、日本航空がマニラなどに、東急ホテルが、ソウル、マニラなどに進出している。こうした外資系ホテルの収入は、四〇・七五%がオーナーの国へバックしてしまい、地元をうるおす部分は少ない。デラックスホテルにするための建築材料、調度なども輸入品に頼るので、その分の外貨も地元から流出してしまう。

また、国際ホテルチェーンの中には、ホテルの経営だけを引き受けて、オーナーは地元資本にまかせるケースもある。これは、地元の政府と特権支配層との癒着、腐敗関係を生み出すものにもなり、民衆との階

級対立をより深刻にすることにもなりかねない。何しろ、先進国の多国籍企業による経済支配の場であり、第三世界の一部支配層の利潤獲得の場である国際ホテルに、豊かな国の観光客がやってきて、地元の人々の貧しい生活とはかけ離れたぜいたくな休日を通す。北の国のツーリストが一日の楽しみに払う金は、南の国の農民が一年間汗を流して得る収入に相当するのだ。

こうした観光産業の急成長は、開發途上国にさまざまなマイナスをもたらしている。經濟開發の外國依存、民衆の生活向上と無関係な消費型經濟、資源の浪費、自然環境の汚染、都市美観保存を名目にした貧民の強制立ち退き、観光客誘致のための治安維持、政治的弾圧、伝統文化の破壊、そして売春……「自然の収奪や資源の乱用だけでなく、買春観光は明らかに、われわれの精神的、道德的価値に反するものであり、われわれの社会に及ぼす被害を憂慮している。政府は特別委員会を作って実態調査し、マレーシアが、太陽とセックスの観光地というイメージをぬぐうようPRすべきである」と、ペナン消費協会の機関誌最新号(八〇年三月号)は、「観光の醜い側面」という特集を組んで、日本人の買春観光を非難した東南アジア各国の新聞

報道を紹介している。

「今日私が持っている女性の搾取の形態は、買春観光産業である。とくに、いくつかの第三世界の国々では、大規模かつ組織的な方法がとられ、女性を利用することで観光客の誘致をはかっている。しかし、彼女たち自身が受ける分は少なく、買春観光のもうけは、旅行会社、ホテル、クラブ経営者、添乗員、売春宿主などに行ってしまう。先進工業国の旅行会社や航空会社に巨額の利益を吸い上げられている」。(7)

韓国のキーセン、台湾のクニヤン、フィリピンのホスピタリティガール、タイのマッサージガール、マレーシアのソーシヤルエスコートなど、それぞれの国で呼び名は違っても、北の豊かな国の外国人男性に性を売る南の貧しい国の女性たちである。「農村で食えなくて都会に出てきた教育も技能もない女たちは、生きるためにほかに何ができるというのでしょ」(8)工場で汗水たらしても一日わずか一・六ドル(月約四十ドル)の低賃金では、氾濫するきらびやかな消費物資はまさに高値の花だが、肉体でかせげば、その数倍の二、三百ドルの収入にはなる。これでやつと、おしやれにも手が届き、田舎の家族に何がしかの仕送りもできる。貧困から脱け出すためという古典的な

パターンは売春である。これは、南北格差が拡大(GNPは六〇年の十一対一から七五年の十三対一へ)していることと無関係ではない。

しかも、これらの国々は独裁政権下であり、自国の女性を外国人に提供するという女性の人権侵害に対して批判や抵抗をすれば、弾圧されてしまう。朴政権下の韓国でキーセン観光反対を叫んだ女子学生は逮捕され、マルコス政権下のフィリピンでは、戒厳令以後マニラ市内に日本人経営のバー、キャバレーが急にふえたというし、タイでは軍事クーデター以後、売春が公認され、観光振興政策が促進されている。若者や知識人が投獄され、拷問に苦しんでいるときに、外国人観光客が女遊びにうつつを抜き、歓楽に酔いしれているのだ。

こうした政治経済的な抑圧に加えて、伝統的な女性差別も、第三世界の女性たちを売春に追いやるもう一つの要因である。かつての日本がそうであったように、貧しい一家が生きて延びるためには、まず娘が売られるという、女性を売買の対象にする習慣は、韓国などの儒教文化圏だけでなく、タイなどの東南アジア諸国にも広く見られる。(9) また、男性には性的自由を認め、女性にだけ貞操を求める道徳基準のために、結婚を

あきらめて娼婦になるケースもある。こうした伝統的な女性差別が、先進工業国による経済的搾取のために利用され、第三世界の女性たちは低賃金労働を強いられるか、売春という性労働におとしめられているのである。南の国々の女性たちがこのような二重の搾取のくびきから解放されて、人権を回復することなしに、日本をはじめ北の国々の女性の解放もあり得ない。買春観光をなくすためには、南北問題の解決に力を尽くさなければならぬと思う。

表 I

	60年	70年	76年
香港	16万3千人	92万人	156万人
シンガポール	9万9千人	50万人	132万人
マレーシア	2万7千人	90万人	122万人
タイ	8万8千人	63万人	110万人
台湾	2万2千人	47万人	100万人
韓国	5万6千人	17万人	83万人
フィリピン	6万5千人	14万4千人	61万人
インドネシア	6万6千人	13万人	43万人

R・ウッド「観光と東南アジアの低開發」より

- (1) イブリン・ホン「マレーシアにおける観光公害」
- (2) ロバート・ウッド「観光と東南アジアの低開發」
- (3) 沈松茂「百万人突破の観光韓国」『新東亜』
- (4) 西川潤「南北問題」NHKブックス
- (5) ジョージ・ヤング「観光と祝祭の喪失」
- (6) ベリカン「ロバート・ウッド前掲論文」
- (7) ISISS「アフリカ」13号「観光と売春」特集
- (8) リン・ニースマン「フィリピンのホスピタリティガール」『アジアの観光売春』
- (9) イルゼ・レンツ「アジアの観光売春」

買春観光を アジアから見る

特集

マレーシアにおける観光公害

イブリン・ホン

マレーシアにおける観光産業は急成長を続けていて、一九八〇年にマレーシアに来る観光客は一九〇万人にも迫ると予測されている。一九七六年に観光客がマレーシアにおと

した外貨は三億ドルにも達した。「観光は経済的利潤をもたらすと同時に、社会的文化的弊害をも引き起こす。このような事態は他の地域ですでに証明されており、それを最小限にいとめるために、徹底的な調査がなされねばならない」と元貿易産業大臣自らが提言している。マレーシアの観光産業発展のために、我々は何を失いつつあるのか、をいまこそ考えるべきである。

一、誰が外貨を獲得するのか

観光客とともに外貨が流入するので観光は経済成長を刺激すると考えられているが、この外貨のうちの一体どれだけが実際に国内に残るのであるのか。

観光市場が拡大されるにつれてますます必要とされるのが、いわゆる「国際的水準」のホテルや観光施設である。しかし、こうしたホテルの大部分は国際ホテルチェーンが経営し

ている。国際ホテルチェーンは、高級ホテルの建設と経営に必要な資本および経験を持つコングロマリッドである。外国人のホテル経営者、コンサルタント、また旅行者者までもが、マレーシアの観光産業の発展から多くの分け前を得ている。

例をあげると、一九七七年二月、観光産業省は、ブサル島を国際的水準の観光リゾートセンターにする計画を発表した。この六千万ドルのプロジェクトは、マレーシアの資本家とイタリアの借款団との共同事業であり、イタリア側で資本金の六〇％を出資し、ホテル経営のノウハウを提供する。同年九月に新聞で報じられた二千万ドルプロジェクト、リゾートセンター「地中海クラブ」も、経営者はフランス人である。同時に、西ドイツのネッカーマンをはじめとして、タイを含む各国の旅行業者がマレーシアに調査に訪れ、営業を拡大しつつある。

マレーシア資本のホテルでさえ、経営・管理から食料調達までのノウハウを得るために、国際ホテルチェーンと契約している。マレーシアにはヒルトン、ホリデイ・イン、ハイ

ヤット等の国際ホテルチェーンが営業している。これらのホテルで観光客が支払う外貨の大部分は、必然的にその外国資本のホテル・チェーンに持ってゆかれ、マレーシアには残らないのである。

そのうえ、観光客は毎日の単調な生活から逃がれてきたにもかかわらず、クーラー、水洗トイレなどの先進国レベルの快適さを要求するので、そうした施設に必要な資材は先進国から輸入されることになる。また、観光客の望むラム肉、コーヒー等の飲食物も大きな輸入品目のひとつである。

「観光産業は、外国商品と技術の輸入による莫大な外貨の流出、という見地からも調査するべきだ」と元貿易産業大臣も語っている。

二、資源の浪費

観光産業は乏しい資源の利用をめぐって、住民の需要と競合する。農村住民の多くが水道・電気・電話等の必要な設備を欠いている一方で、観光ホテルはこうした公共設備を優先的に利用している。国でとれる魚の一番よいところは、ホテルで法外な値段で外国人観光客用のメニューとなる。パイヤヒと切れが二・五マレーシアドル、ライムジュース一杯が四・五マレーシアドルもする時、

いったいどれだけの住民がそうしたものを買えるであろうか。

国内の交通機関がひどい状況にあり、修復する費用にこと欠く一方で、何千万ドルもする国際空港が建設される。何万人もの住民が遅々として進まない住宅建設を待つそばで、高層ホテルがたてられる。エネルギー危機の時、家庭では電力節約を要求されたが、ホテルではこういうところばかりがとらえていた。また各所で早ばつや給水制限がおこなわれている中で、ホテルでは観光客の目を楽しませるために、噴水にふんだんに水を使っていた。

三、もういサービス産業

観光産業は外国人目当てのサービス産業なので、客を送っている先進国の経済状況に左右されやすい。一九七四―五年には、ペナンの観光産業もエネルギー危機と世界的不況の打撃を受け、欧米観光客の数が激減した。一九七六年には観光客の数はさらに減少し、翌年になっても状況は好転していない。加えて、最近ペナンはコレラの汚染区域と宣言され、客足が遠のくことが懸念されている。先進国の景気停滞と、石油値上げによる航空運賃の値上りのため、今後数年間は観光客が少ないということは容易に予測できる。ホテルの維

持費は高く、その低い利用率は即資源の浪費を意味する。

四、経済的混乱

観光は外貨獲得に役立たないばかりか、地元産業にマイナスの結果をもたらす。

観光産業は社会的に弱い立場にある人々の暮らしや生活様式を破壊することさえある。たとえば、ペナンの国際空港は、かつて、肥沃な農地であった。ここに住んでいた農民は何世代にもわたり米をつくってきた。しかし、国際空港の建設により、土地を奪われ、共同体生活は崩壊してしまった。立ち退かされた農家も、空港建設がその地域の排水システムを破壊してしまったために、洪水で農園が流されてしまうという状況にひんしている。また、バトゥ・フェリンギ海岸に沿って、あまりに多くのホテルが立ったので、住民が海岸を使えず、漁民を住み慣れた家から追いつた結果となった。

「フランス人類学者のバリ島での調査では、観光産業は、直接それに従事する人々にのみ利益をもたらさず、住民の九〇％は何の恩恵にも浴さないことが明らかになった。これは観光で誰が得をし、誰が損をしているかという問題を提起している。」



マレーシアの朝市で働く女たち

次に環境学用語でとみに使われる「観光公害」という現象についてみてみよう。

まずホテルであるが、観光ホテルは自然美の最もすばらしい場所に林立し、自然の調和をみだしている。たとえば、先に述べたバトゥ・フェリンギの景観は、コンクリートの高層建築の一群のために台なしになっている。

そればかりか、ホテルから排出される汚水は海水をも汚染する。J・オーエンズ博士（元セインス・マレーシア大学生物学講師）の調査によると、大腸菌群数が環境省の基準値内にあった海岸は、ペナン島ではた

ったの二カ所である。また、今年のCAP（ペナン消費者協会）のテストの結果、マーケット等で売られている鮮魚には、人間や動物の排泄物が安全基準値の一万一千倍も含まれていることがわかった。

このような汚染源はビーチホテルだけであるとは無断定できない。しかし、一九七八年五月の環境規制委員会会議において、バトゥ・フェリンギのホテルのいくつかは、下水設備が不十分であると報告された。

ポート・クラン近くの沼沢地を何百万ドルもかけて観光センターにする計画がある。沼沢地やマングローブの林は大切な自然の生態系であり、これらを取り去ることは、周辺の海洋生物に回復不可能な損害を与えることにもなりかねない。事実、ティオマン島やアウル島のさんご礁は乱獲のため、さんご礁の魚の幾種類かが絶滅するなど、とりかえしのつかないことになっている。

六、観光公害：文化的環境

観光公害は文化的環境をも汚染する。金銭第一主義の考えが支配するため、観光客の気まぐれや幻想につけ込み、こびへつらいするなかで、道徳や文化のいちじるしい後退が起きている。

たとえば、純然たる観光ガイドで

あるべきものが観光客の快楽の対象になったり、ホテルや商店では観光客が最優先されて、住民は「客」としてあつかわれなくなることさえある。金持の観光客のために、アジア人がアジア人を差別する。

また、かつては伝統的手法で絵付けしていたパティックが、みやげものあさりをする観光客の趣味にあわせて、工場で大量生産されるなど、美術品や工芸品の商業化が進んでいる。そして、マリファナ・パーティーをしたり、全裸で泳ぐなど、青少年に有害な影響を与える生活様式や文化を持ち込むヒッピーの観光客もいる。

さらに、観光は原住民に悲劇的な脅威をおよぼす。市販されたイバン族女性のセミ・ヌードのカラーズライドから、ボルネオ女性のイメージを勝手に取りあげた観光客は、興味本位にサラワクの家庭をのぞきに來る。一九七六年の貿易博覧会では、各製品と並んで原住民が「陳列」され、原住民の神聖なる儀式がステージ・ショーにさせられるなどの無神経さに「ぞつとした」人類学者もいる。

土着の芸術自体も観光客の趣味に合わせて変わっていく傾向もある。

七、結論

観光が自然および文化環境の破壊

をもたらしていることは明らかである。

孤独、没個性、疎外が錯綜する単調な都市生活を逃れて、西欧や日本などの高度産業社会から観光客が、「太陽と海とセックス」を求めてマレーシアにやってくる。先進諸国の人々のこのような欲求を商品化しているのが旅行業者である。

観光旅行それ自体は悪いものではない。しかし観光が発展途上国にとって有益であるためにはいくつかの条件を満たさなければならぬ。観光はまず何よりも地元住民の需要を優先させる形でこなわれなければならない。

ヒマラヤの山でも！

どこまでもひろがる群青の空、澄んだ空気と夜の満天の星、眼前にそそり立つ八千米級の山々、歩く山道で「ナマステ」と声をかければ、両手をあわせて笑顔で返し、二時間近くもかけて山道を登り降りして壺に汲んだ水を、旅人には惜しげもなくわけてくれるネパール人、そんな国で売春が……と耳にした時、まさか、と思う一方で、いい知れない悲しい思いに包まれた。ごく貧しいけれど心やさしく人づれのしていないこの国に、女性の性の商品化が始まったとするならば、未だ組織も出来ていない今のうちにくい止めなければならないと思う。この事が起っているの

ならない。地元住民の物理的、社会的環境を犠牲にして観光開発がなされるべきではない。

観光旅行は訪問先の人々の生活と文化を理解しようとする純粋で謙虚な気持ちからおこなうべきである。マレーシアに來ようとする観光客は、輸入された快適さや便利さを要求するのではなく、マレーシアの食事、生活習慣をうけいれる用意がなくてはならない。

我々が選ぶ観光は、我々の生活の質を左右する。ここでいう生活の質とは、高いGNPや所得だけを意味するものではない。それは新鮮な空

気、青い空、豊富な自然、そしてそれらを享受できることなのである。こうしたものを手にいれることができなくなったら、我々のより良き生活はそこなわれるであろう。

きれいな海や空気をもとめ、多くのマレーシア人が、すでに休暇で外国に行くようになっていく。そういう余裕のない者に残されている道は、バトゥ・フェリンギ海岸へ行くタクジの列のあとから旅行し、排気ガスを浴び、汚染された海で泳ぐことだけである。(編訳・小林寧子)

「観光・マレーシアにおける環境への影響」(一九七八年マレーシア環境シンポジウムでの報告)



もった者は殺されるし、カリストが違えば娘に対してもそのような事は村にいらなくなるから売春は起らないというが、それも日本人は旅の恥はかきすて……恥とは思わず、武者修行だなどと考えているのでは、なくならないであろう。

バスに同乗した若い山男たちが、ガイドやシェパ、ホテルの従業員、ネパール人を同僚としてでなく優越感で足げにもしかねない扱い方をしているのを見て、やはり今の世代も、発展途上国の人々を見下し、女を商品化して見るのであろうかと情なくなつた。(水谷光子)

濟州島——始まる新たな収奪

山口明子

濟州島(チェジュド)——韓国の最南端に位置し、四方を青い水平線に囲まれた周囲約一九〇kmの島。渡り鳥が冬をすごし、花がいちばん早く開く。気候温暖の地。島の中央には漢拏山(ハルサン)がなだらかな裾野をひろげている。だが、この火山の地に生きる、人口四十万人余の島民たちは、たえず陸の人間や外国勢力によって収奪され続けてきた。

一九四八年の四・三蜂起では当時二十万の島民のうち五万から八万が命を失い、残されたものは飢えに苦しんだ。

この島が、今、日韓両政財界の手で、一大歓楽郷に化しつつある。「濟州島観光開発計画」が発足したのは古い話で、一九七一年五月に東京で開かれた第五回日韓定期閣僚会議にさかのぼる。この会議で韓国政府は「濟州島の空港及び観光開発について」日本政府の技術援助を要請した。これに基づいて、同年十二月、海外技術協力団から、福永正美国際観光振興会理事を団長とする五名の調査団が派遣され、観光資源、水源、観光施設、空港、道路についての調査を行なった。

この報告書は、濟州島のもつ自然の景観、四季の変化に応じたレクリエーションの可能性、民俗文化などとともに「住民の性質は温和であり、治安が維持されていること」、「西帰浦のホテルにはカジノが許可され、外国人に対して営業されているほか、ナイトクラブや妓生パーティーのできる広間をそなえたホテルもある」ことを観光地としての魅力であり、観光の将来性につながるものとして評価している。また、観光需要予測としては、一九七六年には外国人五万五千人(うち日本人三万三千人)、一九八一年には十二万七千人(うち日本人五万人)が島を訪れるだろうとの予測で、必要とされるホテルの客室を九四〇室と算出している。この算出に当って、同伴係数一・五と見積っているのは、宿泊者の二人に一人が客室に同伴者を招くという意味なのであろうか。さらに国際観光振興方針として、強力な対外宣伝活動、土産品の開発などのほか、「外国人観光客に対して島への出入手続の簡素化、宿泊や飲食等に対する減免税措置、外国製品の特別免税店の設置など優遇措置を考えるこ

とが望ましい」「済州市は濟州国際空港を控え、国際観光ルートの拠点となるので、市内に外人客用のレストランやナイト・ライフが可能な施設の整備が必要だ」と勧告している。この報告書は七二年三月に日韓両政府に提出された。韓国側ではこれを受けて、「青瓦台観光開発計画」つまり朴大統領直属のブレインたちが、七二年二月末から同年十二月までかかって「濟州道観光総合開発計画」を練りあげた。この計画は一九七三年春スタートするが、これによると七三年から八二年まで十年間に総額一千四百億ウォンの投資を行ない、観光道路の整備、国際水準の慰楽団地の造成などにより、計画の完成する八二年には六〇万の外人観光客を誘致し、観光収入をあげるとうたわれている。

しかし、日本では、金大中氏の拉致事件をきっかけに民衆の間に高まった日韓問題への関心、キーセン観光反対の声に刺激されたかのように一九七三年十月、衆議院決算委員会、先の海外技術協力事業団の報告書が問題となった。社会、共産両党の議員から「政府機関派遣の調査団が夜の観光を奨励するとはもってのほか」だと追及されて、関係各省庁大臣たちも「苦しうに頭を下げ」それ以降、濟州島のことは政府関係

の報告から姿を消してしまった。だが、現実の計画は消えるどころか、着々とすすめられている。

現在、濟州島には、KALホテルをはじめとする五ヶ所の観光ホテルがあり、その他にも、建設中のものが五ヶ所。今年中に建設される予定の三つは、何れも、百室から三百室の大型ホテルである。日本航空も八二年度までに同島にホテルを建設する予定であり、すでに韓国国内の合作先もきまっているという。

一九七九年度には、この島に三万一千五百名の外国人観光客を含む七十四万人が訪れているが、今後もっと多くの観光客を誘致し、投下した資本を早く回収するため、韓国政府は今、濟州島観光開発総合計画の再調整中だという。だが、この手直しの内容は、結局、民間資本による特定地域の開発を促進することであり、開発の可能な土地の七〇％は島外の財閥——そしてそれと結びついた外国資本のものとなり、住民は搾取される側だという構造はますます深刻化すると考えられる。

住民を収奪する開発計画にのり出している島外の資本とは、たとえば漢拏山中腹の広大な土地を所有し、KALホテルを運営しているのは、KALと「日本開発」の合弁会社であるが、この日本開発は、あの小佐野

賢治の会社であり、小佐野は同時に大韓航空（KAL）の最大の株主——一個人で一〇％の株をもっているといわれる。しかも、これは、氷山の一角のようなものであって、七一年当時首相であった田中角栄、小佐野と大韓航空社長の趙重勲、朴正熙前大統領の人脈をたどると腐敗と癒着の構造はもっと深くひろがっている。今後、観光地として重点的に開発してゆく予定といわれる中文地区にも、日本資本との合併による中文観光ホテルの進出がきまつており、その他にも、ホテル、ゴルフ場、射撃場などに日本の資本はほとんど食い込んでいる。現在、大阪——濟州、福岡——濟州間には大韓航空の直行定期便があり、日本航空も臨時便をとばすことがあるという。日帝末期に、日本軍が島民を勤労動員して作った飛行場が今、日本からの観光客を迎える入口になっているわけだ。この他に閔釜フェリーも濟州に寄港するようになったが、これを実現させたのは東亜相互の町井久之である。つまり、観光客を運び、宿泊させ、遊ばせる場所のすべてに日本資本がかかわっているのだから、利潤の大部分はそこに入ってしまう。韓国に、それも、地元に着る金は、ごくわずかの、女たちの身を売った代金ぐらいしかないといえる。

韓国の与党である民主共和党政策の中には、濟州島を観光地として開発し、八〇年代半ばにはビザなしで自由に出入りできるようにして積極的に外国人観光客を誘致する」とうたわれている。日本で濟州島がノー・ビザ化すると伝えられたのは、この政策を受け売りしたものである。この政策は、先の、海外技術協力団報告書をすっかり引き写したような形で、「……夜には観光客を国際水準の慰楽団地で安楽な雰囲気、音楽と休息をとらせる」とのべ、多様化し、大量化する観光需要に対する観光資源の開発、新しい観光ルートの設置を強調している。特に、国際慰安観光地と目される中文地区には観光ホテル四百室、民俗館、海女村、カジノなどとともに韓国式料亭設置——キーセン・ハウスの新設——の計画もあげられている。

このように濟州島全体がひとつの観光地帯となる時、住民は、すべて観光業の雇傭人となるだろうということばは過言ではない。現在、濟州島には二ヶ所のキーセン・ハウスがあり、韓国教会女性連合会が今年（八〇年）二月に調査したところだと、観光妓生は、この二ヶ所に所属するものと、抱主のところにいるものと合せて約三千人とみられる。妓生の九割は島外の出身で、



民衆が血を流して闘う韓国でカジノに興じる日本の男たち

観光ラッシュの折には、釜山やソウルからも飛行機で女たちが連れてこられるという。妓生一人が五人から一〇人の日本人の顧客をもつて現地妻のふりをしており、彼女たちの住む近くには「日本語の代書屋」がある。年末年始に一人の女が平均三、四〇通の年賀状を出す、多い人は二百通も出すのだという。だが、妓生の収入は、日本の旅行社、ランド・オペレーターといわれる韓国側の旅行社、料亭、ホテル、抱主と中間搾取されて、本人の手もとにはほとんど残らない。日本円で二

万円（韓国五万六千ウォン程度）のうち、半分以上の二万五千ウォンから三千ウォンが女の手に渡るが、料亭（キーセン・ハウス）に住みこんでいる女たちの場合は、その収入の中から、レッテル代、販売促進費、はては社長の誕生日祝まで強制的にとられるというし、抱主のもとにいる女たちの場合は抱主が一万五千ウォン、女が一万ウォンという形でわかるのだという。料亭で売りつけられる衣裳は市価より高く、タクシートの運転手も商売女とみれば高額チップを要求する。料亭によっては、

二晩続けて同じ客の相手をするのを断わった場合、また宴席の客の半ば以上がホテルに彼女たちを同行しなかった場合、お客をとらなかつた女からは一万ウォンの罰金をとるところもあるので出費は多い。——二年も身を売ったけれども残ったものは着物が数枚と、なじみの日本人客がくれた写真機一台だけというCさんは「金を稼ぐひとと、稼いだ金を使うひととは、まったく別よ」という。

日本人客の中には、観光とセールスをかねて、テープ・レコーダーや写真機を持ちこむものもあるというが、これは正確には遊ぶ金のために日本製品を持ちこんで現地で売るということではないだろうか。

七九年十月、朴大統領が殺され、韓国全土に非常戒厳令が敷かれた折にも、濟州島のみは例外だった。崔圭夏暫定大統領は三月二十七日濟州道を巡視して「濟州道は地域的、天然的条件から見て、世界有数の観光地となる適地なので、天恵の観光資源を大切に保護開発しなさい」と指示している。ことに「中文観光団地開発と狩猟場造成、民俗自然史博物館の設立など濟州島観光開発総合計画が、円滑に推進されるよう努力せよ」と激励し、「中央でも、この計画のために積極的に協力する」と約束していることからみても、濟州

島を「一大国際慰楽観光地」に仕立てる計画は、ポスト・朴の今も変わっていない。

民俗村設置のために、すでに、城邑里の生徒数三百三十人、教師七人という小さな国民学校を離れた地に移し、その後に旅館や民俗公演場、飲食店、みやげ物屋をたてる計画もあるなど、総予算三十五億六千万ウォンをかける観光の中心地民俗村の建設によって、島のこどもたちの教育すら脅やかされようとしている。今でさえ、観光客は、島の古い家々にカメラ片手に入りこみ、老人たちを、珍しい動物でもあるかのようにながめまわすのに、民俗村完成の暁はどうなるのかという村人の声もある。

かつての王朝時代の収奪、日本の侵略に続いて、今また新しい「占領軍」が濟州島をわがもの顔に占領しようとしている。漢拏山の噴火口は死んではない——むわっているのかもしれない。濟州島は、島人のものだという、韓国のルポ・ライターカン・チャンミン氏のルポはこう結ばれている。

光州でおびただしい血が流され、学生・市民たちが殺りくされている最中に、本稿の校正をみることにな

バスから落ちた女たち

一九八〇年三月二八日付の東亜日報によると、三月二七日夜、ソウルの外れに当る京畿道坡州郡州内面の路上で、郡保健所所属のマイクロバスに乗って、坡州郡金村邑の倫落女性のための職業補導所に送られる途中であったK・Kさん（23）ら三名が、走っているバスからとびおりて逃げようとし、KさんとA・Iさん（20）Y・Aさん（20）の三名が即死、C・Mさん（22）ら五名が重傷を負った。彼女たちは同夜、慰安婦など保健所の許可証をもたない「職業女性」のいっせいの検束にひっかかったもの。警察は郡庁の婦女係長K・K氏（49）と婦女相談員K・S

氏（28）ら郡職員九名を業務上過失致死傷で取り調べ中——とある。亡くなった三人は何れも農村の出身である。職業補導所に送られることいやすに、走るバスから脱走を計って生命を落した女性、業務上の責任を問われる婦人相談員——このかげに、いっせいの検束の網にかからない高級キーセン、保健所の許可証をもつ女性はソウルだけでも五千名余りいるという。ソウル市が売春行為に対する自衛指令を出し、浄化に乗り出す時にもまず住むところを追われたのは、許可証のない女たちであり、その後には外国人相手の観光キーセンが移って来たといわれる。（Y）

もいい……。聞くにたえない会話にりつ然としたのは聞いた本人だけではなかった。（まとめ・山口明子）

資料

「百万名突破の『観光韓国』」新東亜七九・二「『観光韓国』同七六・七「やがて観光妓生とならねばならぬ乙女たち」、「ホテル旋風が吹く」ブリキブナム七九・五、「濟州島——この地の新しい所有者たち」同七九・九（未見）、「濟州——土着の人々の村」同八〇・三、「一九八六・先進韓国」民主共和政策委員会七八・五、「今月の韓国」八〇・二

台湾の国際的花街

呂 求

台湾は、人類の尊厳と基本的人権をそこなう観光売春で、ここ数十年来知られている。外国人を対象とする売春は、ベトナム戦争と関係が深く、アメリカ軍が台湾を兵士の慰安所としたことに端を発する。ベトナム戦争が終結に向かうにつれ、台湾の国際的売春業も衰退していった。ちょうどこの頃徐々にふえだしたのが日本人観光客であり、今や台湾での国際売春業の客は、大部分が日本人である。この現実には、日本がアメリカに匹敵するような投資を台湾にしていること、近距離であるという理由によることに加え、政府が売春を餌に日本人観光客を誘致しているためである。

「北投」は台湾の観光売春業の象徴となった。北投は、天皇裕仁がつかった温泉として、日本で名高かった。第二次大戦の末期、神風特攻隊は死におもむく前に、最後の欲望を北投で満たした。その後、蒋介石が台湾に撤退してから、中国美人を集めた売春地帯となっていた。

北投には、許可書を持つていた売春婦が五千人以上いるほか、許可書を持っていない売春婦が三千人以上いる。

多数の観光客がやってきて、北投にいたる売春婦だけでは足りない時は、北投周辺の淡水と台北市の売春婦によつて随時補給できるようになっている。淡水には許可書をもっている売春婦が千五百人位いる。台北市は観光売春業の中心である。もともとひかえめな統計でも、台北市には六万人以上もいるという。これに台北市をとりまく売春婦の衛星供給地——永和、板橋、中和、三重市等の数を加えれば、台北市には十万人の売春婦がいるという説も誇大ではない。さらに北投と並び称される礁溪郷も合すれば、台北—北投—礁溪における許可書をもっている売春婦は約十一万人になる。台湾全島の売春婦の数を、内輪に見積つて二倍と考えたなら二十二万になる。無許可の売春婦も数にのはいれるのなら、政府でさえも正確な統計をだすことはできない。

観光売春が取引される場所は様々である。観光ホテル、酒場、キャバレー、観光理髪所、観光土産店、観光マツサージ院、バー、美容院、ダンスホール、レストラン、はなはだしきは「高級」服装店でさえ観光売春業を経営している。ある人に言わ

れば、台湾では「観光」という二字がつく商売は、ほとんどこの種の売春取引をおこなっている。もつかのところ、台湾の観光売春業は空前の繁栄をしめしている。台北市の萬華には、都市の低所得層を客とする売春地帯が昔からあったが、その他に西門町にあつた猥褻コーヒー店は、ウェイトレスが観光売春婦に転身したため一瞬のうちになくなつてしまつた。

日本人観光客が台湾女性を一晚買うのに、部屋代は別で二千元（約一万二千元）から五千元（約三万円）払う。このうちいくらが売春婦のものとなるのだろうか。中間搾取する人がいて売春をとりもっている。客がボーイを通じて女性を紹介されるのが、最も「単純」なプロセスであり、仲介者は50%のわけ前をもらう。しかし、このような「単純」な取引はあまりない。ボーイは観光客に女性の紹介をするとき、台北で最も若く美しい女性を世話することができると言う。この女性は売春を職業としていたのではなく、女子学生、店

員、商社の秘書であつたりして、病気がなく、途中で逃げだしたり物を盗んだりしないこと、翌朝の九時から十時まで一緒にいることをうけあう。だから値段は少し高い。ボーイはさらに観光客の花代を自分で預り、翌朝女性に払うことにすれば、客はだまされないだろうと言ひ、五千元を受けとる。このうち二千元を売春婦に払い、残りの三千元はボーイのふところにはいる。そのうえ売春婦は二千元の花代のうち仲介者に50%の紹介料を払わなければならないから、観光客が払った五千元のたつた五分の一、千元が売春婦のとり分となる。無論、この計算は「上客」の場合だ。

当然、この暴利は仲介者が一人占めするわけではない。ホテルの部屋を管理している人、ガイドの上司、各観光売春業に寄生しているごろつき、ヤクザ、管区の警察、地方議会の議員、さらには調査局、国民党の地方幹部、保安処、情報局などの特務機関まで、女性が体を売つたお金でうろつていける。台湾では、売春のような「特種営業」は、ヤクザ、

買春観光をあつせんする旅行社を知らせて下さい。!!

個人または団体で旅行をした時、旅行社や添乗員から買春観光をあつせんされた方、具体的な体験をアジアの女たちの会 五島まで聞かれた方、情報を是非お寄せください。03 5087 070 (昼間のみ)

黄春明さんからのメッセージ

黄春明です。日本人の買春観光に反対している良心的な皆様にごあいさつ申し上げます。私は台湾人同胞女性が春をひさぐことに対して、本当に悲しい思いをしております。とともに、貧しさのために春をひさぐ女性がいることをいかに買春観光に利用する日本人男性に対して、実にがにがしい思いをいたしております。私は友人とよく語りあうのです。売春宿から出て来る日本人の男の態度や行動はかつての日本軍と同一

一九八〇年一月 黄春明

黄春明(ホアン・チュン・ミン)さんは台湾で一九三九年に生まれ、現在は二児のお父さんです。彼はいま台湾で最も愛され最も畏れられている作家です。それは、彼が民衆の真の代弁者であるからです。彼はいかなる圧力にも屈せず、勇敢に、巧妙に闘っているのです。彼の作品「さようなら・再見」(一九七九年九月文芸社発行)は、日本人の買春観光がテーマで、台湾で空前のベストセラーとなり、すでにアメリカ、韓国、ドイツ、日本で翻訳され、出版されています。この本の内容は、インテリで真面目で民族意識に目ざめてい

る主人公が会社の命令で日本人の接待役をさせられ、ポン引きまがいなことをしなければならぬ旅行に付き合う、その道中記なのです。主人公は車中で、日本に行きたがつていて中国青年と日本人達の間の通訳を引受けるが、主人公はわざと間違えて、中国青年には中国人としての誇りと自覚を、日本人達には台湾で日本人が何をしていたのか、何をしていたのかを日本人自身に気づかせていくのです。よりよい台湾と日本の関係をみごとに表わしている素晴らしい文学です。皆さんもぜひ、こ

(須田 幸子)

警察、特務の陰の助けがなかったら存在しえないのである。

台湾において、売春婦に身をおとす少女は、次のようなところから出てくる。まず最初に、台湾に昔からある「養女」制度である。貧しさのために売られた養女は、つらい労働とムチと蔑視のなかで生長し、娼家に売られてしまう場合もある。第二には、農村にある。破産、家族の病気、子だくさん、貧困等々により、多くの少女が女工や店員となるが、依然として貧しさを救うことができず売春婦に身をおとす。なかには、借金のかたとして娼家に売られる少女もいる。第三は、山地の少数民族社会である。多数の高山族の少女が町へ出てゆき、だまされたり脅迫されたりして売春婦となる。高山族は、人種的に社会経済的に、破滅に瀕している。その他に、セミ・プロの売春婦がいる。都市の低所得層の娘や主婦、そのなかには下級軍人の妻女もいて、家計を助けるためにひそかに売春をする。ひどい搾取のなかで、大部分の売春婦は、生活という重い負担をいまだに解決できないでいる。

もともとは、純朴で差らいのある少女が、突然売春の世界におち、心をひどく傷つけられるような屈辱的な日々をすごしていくうちに人間性までも変つてゆく。

台北の飛行場で、軽装の日本人が釣竿、ゴルフ用具をもつて出口から出てくるのをよく見うける。これら場慣れしていて、台湾の色街にうつつをぬかす日本人は、このようないでたちで妻子、兄弟、同僚などを欺き、日本のどこかへ釣りにいくとか、ゴルフ大会へ出るために外国へ行くとかいって台湾へこっそりやってきては、他国の女性をもてあそぶ。もちろん、正々堂々と「出張」の名目で来台するものもある。彼らは一兩日で仕事をすませると、一直線に色街へ行って残りの時間を買春に費やす。こんななかには、日本の青年、学生、小市民がアルバイトや分割払いによつて台湾にやってきて、苦勞してかせいだ金を使ひはたすということも聞いている。

「七〇年代」一九七九年・六月号より

台湾における売春

ドナルド・グリーン

台北郊外の北投温泉は、男たちの一大買春センターである。台湾の観光客誘致は今ではより組織化され商品化されている。いまだに日本の五十年に及ぶ台湾支配の暗い遺物に出くわす北投では、日本風の宿、日本語のパンフレットを用意して観光客の約半数を占める日本男性を受け入れている。

台湾女性が売春婦に転落していく過程には二通りある。地方の貧農や労働者の娘たち、孤児、「養女」などが話のうまい商売人にのせられて都市におびき出され、部屋や衣服、ダンス、レッスンといった形での訓練をあてがわれた後、途方もない請求書をつきつけられ、一生を前借で苦しめられることになる。例をあげれば、十七才の娘の文盲の父親が親戚にだまされ、娘を工場へ見習いにやるといふような話でサインをさせられたが、実は売春宿との契約だった。警察は「法的な契約」に関わる「家庭の事情」には干渉しないと捜査を拒否し、彼女を救出しようとする兄弟も暴力で妨害された。

次に多いのは女性自身が自分で売春すると決めることからだ。繁栄は

多くの台湾人に中産階級の暮らしの幻想を与えた。しかし政府は国民の消費欲に応じた収入を保障することはできない。こういった状況の中で約五年位前から下級官吏の大学に通う娘たちが売春をするようになったという話を聞いた。学生証や卒業証書があると稼ぎもふえる。(どこでこのような女子大生を手に入れられるか詳しく書いた案内書すらある。)又、ウェイイレ、ホテルのメイド、店員などが足りない生活費を稼ぐためアルバイトで売春をする。若い男性もプロとしてあるいはフリーで売春をしているということだ。台北のビジネススマン相手に副収入を得ている空軍兵士の話も耳にした。

ところで、今日台湾に売春の繁栄をもたらした第一の責任はアメリカにある。十年間に及ぶアメリカの大幅なインドシナ介入で数百万のアメリカ兵が東南アジアに駐屯した。彼らの多くは到着後まもなく、アジアに民主主義を打ち建てるのかアジアの人々を助ける、という幻想を捨てるようになり、遂にアメリカ軍敗北の原因の一つである道徳的退廃がはびこった。

この退廃はさまざまな形で現れる。その一つが、上は大使から下は兵卒に至るまで、海外駐在中はアジアの女性に手を出しても絶対に罰せられないと全く疑うことなく信じこんでいることである。「R+R」(Rest and Recreation 休息とレクリエーション)と呼ばれる兵士用の観光旅行が隣国へ公に組織される。兵士たち自身は率直にもそれを「I+I」(Innocence and Intercourse 陶酔と性交)と呼んでいる。

台湾はこの「R+R」プログラムの中心地の一つとなった。ベトナム戦争の敗北後、アメリカはアジアから撤退しはじめたが、米軍のもたらした大量の米ドル流入は地方経済を完全に麻痺させてしまい、米軍に替るものが求められた。

インドシナ戦争でとそれをとりまく経済情勢の中で売春は地方レベルの規模から大企業となり、外貨獲得、GNPの成長へと「貢献」していたのである。



当然これは政府が売春を容認していることを意味する。「勿論政府は奨励してまずよ。いわゆる観光産業ですからね。」とある若い台湾人が私に怒りをぶちまけた。

政府と売春は直接にも結びついていて。例えば北投最大のホテル南華は約七千米ドル相当の救急車を地元警察に寄附しており、又警察官の住む家もホテル業者からの寄附だと聞いた。警察は毎夜の賭博収益の分け前にもあずかっており、これが地元経済の大きな支えとなっている。

台湾人は、陸軍が定期的に設ける「軍人の天国」が何であるかを知っている。朝早く若い兵士たちは列をなして自分に回ってくるその数分間を待ちうける。彼ら自身が毎日受けている抑圧、不平等、無意味さを他人に転化するその数分間。

このように政府が売春と公に関わっていることは国際的にも例がある。ファー・イースタン・エコノミックス・レビュー誌の一九七六年十月八日号はシンガポール政府が訓練のため台湾に派遣した軍隊にコンドームを支給したと報じている。この軍隊派遣は極秘とされているので、国民党政府の黙認なしにシンガポール兵が受け入れられたとは考えられない。

(編訳・大石まゆみ)
『モンスーン』一九七六年六月号より

タイ経済を支える売春観光!?

不破真理

タイ観光局(TAT)は、一九八〇年を「観光年」と決め大キャンペーンをはり、観光客をひきつける様々のプログラムを用意している。観光は、タイ最大の外貨稼ぎ産業であり、貿易収支の赤字解消に多大の貢献をしていることが、最近しきりに強調されている。新しいプログラムでは、より多くの外貨を稼ぐため観光客の滞在期間を長くし、バンコク周辺だけでなく、タイ各地の新しい観光地を訪ねるよう計画され、北部のチェンマイなどに外国から直接乗り入れる航空便も予定されている。さらに、デラックスなホテルが、新しくバンコクだけでなくチェンマイや南部のプケット島にも次々と建設される運びで、これには日航などの日本の投資も行われている。外人観光客を治安の悪い地方都市に連れていくために、警察、内務省と協力して、警備体制を強化することも考えられている。タイ観光局の発表した一九七九年一月から九月までの統計によると、約九〇万人の外人観光客がタイを訪れたが、その第一位は日本人の十五万人で、二位のイギリス人を大きく引離している。先頃、ヨーロッパ

外人観光客を増加させるため、タイ観光振興使節団が派遣され、ヨーロッパのパッケージ旅行をあっせんする旅行社とタイアップし、フィルム・ショーやマスメディアを通じて、タイへの潜在的観光客を誘致すると発表した。TATは一九七九年末までに年間百四〇万人の観光客を見込んでおり、その落す外貨は、四億二

日本の性教育と天皇制

ここでの性教育を仮に、真実に男としてまた女として生きるという内容を持つものとする、日本という国は性教育の育ち難い国だといわなければならない。それはさまざまな理由があるだろうが、一つは日本がまだ天皇制が生きている国だからである。なるほど私たちはいま明治時代に生きているわけでもなく封建主義の鎖に縛られているわけでもない。いまほど女性がのびている時代はなかった。しかし私の目には強じんな細いクモの糸のような女を縛る糸が見える。その糸を断ち切ろうとして苦しみもがいている声が聞える。私は長いことそういう女性のたたか

千五百万ドルとはじかれていた。これは、タイの石油輸入代金の三分の二にあたる。このため観光業界の鼻息は荒い。タイでは現在エネルギー危機のためすべての店が十二時閉店となっているが、このほどナイト・クラブ、マッサージパーラー、デイスコ、レストラン等は結束して、観光客によくサービスできるように閉店時間を一時間延長することを政府に要求した。タイ経済は、オイルショックで物価が急騰し、主要産業の繊維は不況であり、農村は早稲づで、

ほとんど唯一の成長産業は、観光業である。

ところが、このような観光業とはいうまでもなく「セックスをまさに不可欠の部分とする」売春観光である。最近、バンコクでこのような売春観光を正面から積極的に評価し、さらに組織化を計っていくべきであるという論調が目立っている。例えば、一九七九年一月一日付のバンコク・ポスト紙は、ピーター・シアー氏の次のようなコラム記事を掲載している。「……スベシャル・サー

「夫が東南アジアへ旅行する時、私はサックを持たして出してやったのよ。」そうすることが「常識」になってしまえば考えなくても済む。天皇制と結びつけるのは突飛だろうか?

十年程前から性教育はさかんになってきたように見える。先日初めてNHKテレビで長時間討論があった。推進論と反対論とバランスよく立っていたのが女性作家の「日本には日本的な表現と考え方があり」という議論であった。これが私の感じるクモの糸である。性教育を進めていくとどこかで個の確立にぶつかると。性教育は目立たない日常生活の中の長いたたかいである。

「夫が東南アジアへ旅行する時、私はサックを持たして出してやったのよ。」そうすることが「常識」になってしまえば考えなくても済む。天皇制と結びつけるのは突飛だろうか?

十年程前から性教育はさかんになってきたように見える。先日初めてNHKテレビで長時間討論があった。推進論と反対論とバランスよく立っていたのが女性作家の「日本には日本的な表現と考え方があり」という議論であった。これが私の感じるクモの糸である。性教育を進めていくとどこかで個の確立にぶつかると。性教育は目立たない日常生活の中の長いたたかいである。

(大島静子)

市民の服を着た帝国軍人

1980年3月24日(月)
朝日新聞

フィリピン大教授 レナト・コンスタンティーノ氏

日本人観光客の行動

観光客を受け入れ、国民の間に、文化的ないし行動様式の違ひから緊張が生まれやすいものです。この緊張がさらに高まることもあります。こうした一般の緊張のほかに、フィリピンは、日本人の観光が、より深刻な根をもった特異な緊張をもたらししています。

第は外見上の問題です。日本人観光客はフィリピンに大挙して押し寄せてきます。この観光客の侵略というイメージは、大グループで旅行し、どこへ行ってもみんないっしょというやり方、さらにきつわだちます。しかも、米国人やヨーロッパ人と違って、日本人観光客は同質的、きつや体つき、言葉からいって、それと知れるのです。これら観光客たちにはいるような階層の人たちがいるはずですが、彼のほうを見る印象は概して同種族

レナト・コンスタンティノ
フィリピン大卒後、米ニューヨーク大などで学び、46年フィリピン
大政治学科講師、75年同大歴史学
科、76年同政治学系各教授、70年
から72年までミナ・クロニル
紙のコラムニスト。著書に「フィ
リピン・ナショナリズム論」な
ど。60歳。

の卵を生むガチヨウを殺すのに等しい。」(バンコク・ポスト一九七九・一一・一五)

このような生産性をともなわない「虚業」で経済を発展させようとする社会は、病んでいる社会である。一九七九年一月三〇日付のタイ・インフォメーション・センター・ニュースによれば、バンコクの四百六〇万の人口のうち、六〇万人が麻薬中毒者であり、子供から老人まで含めての女性人口の約五%は売春婦で、他の娯楽産業で働いている女性の数を加えるなら全体数は三〇万人をこえるだろうと述べている。これは、繊維工場等で働く女子労働者の数などよりもはるかに多い（製造業全体で女子労働者は、二四万四千人）。マヒドン大学公衆衛生学科の行ったバンコクの千人のマッサージガールの実態調査の結果（バンコク・ポスト紙一九七九年二月一日付）によれば、一〇人のうち九人は、北部タイ特にチェンライ県の貧しい農村の家庭からきており、初等教育の四年を終えたものの実質的には文盲であり、他に職がないのでマッサージパーラーで働くようになり、稼ぎは家族に送金しているという。農村の貧困と、製造業の雇用機会の創出の失敗が裏書きされるデータである。また九九%は、特別料金のためにセ

ックスをサービスする用意があり
一日四、五回客と性交渉を持ち、八
〇%が少くとも一回以上性病にかか
ったことがある。全員が政府に望ん
でいることは、週一回医者に性病チ
エックをするサービスをしてほしい
ということ、年とった時、自分で
稼げるような技術を身につけられる
職業訓練コースを設けてほしいとい
うことである。マヒドン大学のテパ
ノム博士は、政府は、彼女達の望ん
でいるサービスを提供すべきだとい
べている。彼女達はほとんど二〇代
前半で、その夢は、金を貯めて故郷
へ帰り、美容院かお店を開きたいと

いということである。自己を生きさせていくための彼女達の切実なギリギリの要望とささやかな夢を知る時彼女達の肉体と精神の破壊を代償として外貨獲得と金もうけをもくろんでいる人々の非人間性と倫理性が怒りをもって問われなければならないと思われる。一九八〇年一月一九日チュラロンコン大学とタマサート大学のフットボールの試合の際、学生達は「観光年」を評して「Welcome to Seland」という大横断幕を広げてパレードした。売春観光をなくしていくため、このような意識ある人々とともに闘いを進めていきたい。



干ばつで、又何人の女たちが売られて行くのだろうか。
東北タイ マンケン県。瀬戸正夫氏写す。(80年3月)

友情より敵意育てる

罪の意識を欠き無神経

的な感じですし、その印象は大体においてマイナスになります。

観光の目的の一つは人々をより親しく結びつけることだといわれますが、フィリピンにおける日本

客が、日本人の観光によって繁栄する。文化ブローカーどもにしか接触しないことから来ます。日本人観光客たちは、その他の国に一般に与えている影響については

人たちと話したり、友達をつくらひはしません。まるでフィリピン人など眼中にないかのごとく振舞います。特殊なホテルに群り、たくさんある日本料理屋で

ておき、日本人は別の面でも、
うけに専心しています。日本人
イドをあてがい、日本人が融
ている特定のレストランや商
に、観光客を案内していること

のを見ると、フィリピン人はだと思ひます。フィリピン人は、この男たちや、彼らがめる死者はもしかすると、を殺し、拷問した張本人で

いは考
があ
同胞
はな

人の観光については、私はこの反対こそ真実だと思っています。日本人観光客は、自分たちがかつて占領し、虐待したフィリピン人のものつうらみを忘れたように見えます。それは一つには、日本軍国主義で

わかりません。国民一般は、所
をもたらしくれる対象として容
容してはいませんが、同時に死と破
壊と残虐のにが記憶を呼び起
す異邦人としてもながめているの
です。

つづく。景色、食物、民族、歌や踊りなどをあつらへ、きになくされた形で消化する。その国や人びとを理解しようとする傾向は見当たらないし、その会もありません。

す。個光緒を誘致するため、行
っている魅力的な投資がまた個
と、その受け入れ側住民との四
ギヤップを広げています。地主
を対象にした施設の整備が行

るに無神経で罪の意識を欠いてるのは、自分たちをはかにし辱めるものでしかないのです。日本人観光客はその行いで情よりも敵意を育てている。友情のきずなは本当に回

てい、侮、友、の、で、復さ

この「無邪氣」は日本人観定
の活種（せうしゅ）を決定する
ことではございませんが、日本
人の中で主義の罪を、果して自
分の中では唱（な）げ（せ）し（た）か
どうかは疑問だと思ひます。と
くに、学校の教科書の中で、日
本の根本原因が説明され、日
本軍の残虐行爲の記がまゝ扱
わねなかつたことを考へれば、
おのづかです。

に横溝の如き後援によって、特別に配車と保護を受けているのです。日本人観光は、本当に温かく迎えられてゐるのだ、と錯覚すべからぬであらう。東京銀座のグランドホテルの廣さフィリピン人の情の衰へて思つてはなりません。反省の色もなく、ごく慢な態度でわが國に足踏み入れ、地元民に対し野郎に振舞つてゐる日本人には、また強い反感が湧つてゐるのだ。

日本男性のために、くにあ
 らえられたセックスマシンの前持
 式ホリデー・ツアについて、
 どうも書く必要はないでしょう。
 その低級なアレシオのやり方は
 い怒りを買っています。

ついでに、戦死者の遺族生活が落し戸です。戦死者を祀るために建てた神社を巡礼して回ることがこの神社を巡礼して回ることによって死んだ親族のために祈り、おがめる。このため、口人の間では、戦争は名誉あるもののためのものであり、この良風美俗の敵味方ともいまいや互いに善し合ったのだ」と考

の脅威と見てきたからです。軍の占領中、フィリピン人は軍の最もひどい面を体験した。現在の観光客は初めて自らの占領した国の市民たちと一緒に生活する面もあると、これは日本人は変わったのだと、いふべきではないでしょうか。観光客たちは服脱ぎに身をつけた日本帝國軍人と同じです。

日本 日本 まし 分た 日 ある いち ぎ たい 17、

フィリピンへのレポートから

「ゴドロ・ガール」

ここに、フィリピンの或る大学の社会学教授の下で、学生一三名が二週間、マニラの一流ホテルに実習生としてはいり込み、社会学における「逸脱行為」の定義を、「ホテル」という実際の社会状況において検証したレポートがある。学生達は、フロント係、客室係、フロア係、売店及びレストラン等の、ホテルの各部門に配属され、どの様な状況、過程で「逸脱行為」のラベルが貼られてゆくか観察している。そのホテルの最大の客は日本人で、彼等は集団で次々に到着しては、ナイトクラブなどへ出かけ、各々が女性を伴って倍の数にふれてホテルに舞い戻る。そうすると、ホテルの内側から彼等を迎える従業員が、日本人に対して固定した感情を持つ様になるのは当然であり、このレポートはその意味で、日本人の買春観光の実態を知る上で貴重な資料といえよう。

日本人観光客の行状は、従業員から既に「逸脱行為」として厳しい批判が向けられている。従業員は、異口同音に日本人男性をセックスへの飽

くなき欲求で血走った動物、と断言する。又、日本人は従業員に対して横柄で威張り散らし、ウロウロ、チヨロチヨロ動き回り、日本語で汚い話も大声でしゃべり、部屋の使い方も汚いし、臭い。性格は攻撃的。女性を蔑視して、女性と見れば従業員も含め誰でも売春婦と思ひ込んでゐる。又、現金が底をつけば、自分の計算機、時計、カメラなどを現金に替えてまでセックスの為に使う。品物は手当たり次第に買いあさり、近くのガソリンスタンドで無料配布している地図や、流行遅れのセンスの悪い色シャツ等も、よく吟味もせず買い込むのは、きまって日本人である。等々と従業員は分析する。他の外国人に比べ、チップの払いや、売店の買いあげが最高であるにもかかわらず、日本人観光客の行状は最低の評価となっている。

特に明記すべき事は、従業員の間で「ゴドロガール」という隠語が使用されている事である。これは、ホスピタリティーガール、即ち、売春婦の別名であるが、「ゴドロ」とは、日本語の「五ドル」から来て居り、これは、ナイトクラブのホスピタリティー

ガールを同伴してホテルに舞い戻って来た日本人客が、彼女達を同宿させる為に支払う同伴料が五ドルであった頃、口々に「五ドル」「ゴドル」といながらカウンターに群がり、我先にと通過証を受け取っていた情景の強烈さを物語っている。従業員が、今や、その言葉を売春婦の代名詞として蔑視的に使っているのである。

アメリカ人の中には、言葉の自由もあり、街やビヤホールで個別交渉した女性を、同伴料も払わずにホテルに連れ込もうとする者もいる。しかし、毎晩欠かさず女性を連れ込む日本人は、同伴料の事でいざこざを起し時間を取られるより、一刻も早く部屋へ入るのが得策だと考えている、と従業員は見る。



日系クラブのあるマニラの歓楽街

一人の女子学生は、フロアマネージャーの案内で客室をまわった時、部屋の中の日本人が、売春婦を部屋まで配達されたと勘違いし、顔の表情を妙にくずし、二人が部屋から去って行くのを、ポカンとした顔でドアにつつ立って見ていた、とレポートに書いている。又、真白いシャツが血液や髪の毛で汚れているのを見て驚いた客室係の学生に、従業員は事も無げに、日本人は大体こうだ、と平気な顔で説明した。そのホテルでは、ベッドメイキングに女性は雇われない。女性は生理などで多く休むからという理由の外に、以前、英語の解らない日本人に、売春婦に間違われ、強姦され妊娠した事件があった事が最大の理由という。

学生達の実習期間中、一人の日本人が商用で滞在し、学生達をコピーに誘って会話を楽しんでいたと実名で再三登場する。それは、外国人旅行者としてごく普通の態度といえる。しかし、その日本人が、一種特別な存在と与る程、日本人を一塊にしか捉え得ない現在の買春観光の異常性がうかがえる。

学生は、単に売春行為を逸脱行為として捉える事にも疑問を投げけている。社会の規範に反する、という場合の規範とは何か。逸脱行為として貼られるラベルが、如何に容易に貼

る側の論理によって変えられるものであるか。即ち、一流ホテルでは、「この種」の女性の出入りは、ホテルの権威と評判に関わるとして厳重にチェックされて来た。しかし、日本人観光客が急増し、彼等がホテルの経営上必須の存在となっている現状では、ホスピタリティーガール（売春婦）も、同伴料が支払われる限り、ホテルにとっては「好ましい客」となるのである。それが同じ売春行為でも、「ひも」などの仲介で勝手に客引きをする場合、ホテルのロビーや各階に配置されたガードマンに、発見と同時につまみ出されているのを学生は実際に目撃している。

「フィリピンのホスピタリティーガール」

（要約） エイ・リン・ニューマン
急激な経済成長の下で、外国依存の仕事は男性より女性へのニードが高く、特に貧困な地方から押し出された女性達が都会の夜の仕事に群がる。現在、首都マニラには、ホスピタリティーガールといわれる女性が数十万人以上観光サービス業に関わっていると推測される。

一九七二年の戒厳令以降、外貨収入の第四位が観光事業で、七二年は二億六千二百ドル（六百五十億円）七七年は、三億ドル（八百四十億円）に成長した。

この外貨投資国の第一位が日本人観光客で、全旅行者の二九%を占め、日本人観光客（〇万人の八五%以上が男性である。一日平均五五ドル（一万三千円）を宿泊費その他で使い、その二倍のお金を女性に使うと推定される。その為に、日本の大手旅行業者と現地の大手業者がタイアップし、ホテル―買物―女という一貫したルートを敷き、大がかりな組織の下で女性を搾取し、使い捨てる構造を生み出した。一軒で二百人の女性を管理している店さえある。

店から連れ出される料金は約六〇ドルで、それを店、旅行業者、地元ガイド、日本人ガイドなどに分けられ、女性は、店の経営者の配分一五ドルから約五ドル（千二百五十円）がわたされる。それでも、罰金と称して、女達の服装、遅刻などを理由に差し引かれる。女性の収入はもっぱらチップに頼らざるを得ない。

売春産業と地元資本家が如何に深く関わっているかを示すのが「同伴料」システムである。フィリピンでは、多くの国際会議の開催をマニラに誘致する為に、一流ホテルが急増築され、一九七六年にも、世界銀行協の総会も開催された。しかし、その会議後は、ホテルの保客率が60%を下まわり経営難に陥った時、一流ホテルでもホスピタリティーガール

トルコ風呂業者の政治献金

高橋喜久江

国内の売春問題にとりくんできた私からみると、国内の売春業の繁栄と買春観光をうみ出す構造は同じであり、とくにバイシユンをゆるす意識においては全く同じであるといわざるをえない。

明治以来、娼娼運動は公娼制度とたたかう面からすすめられた。思想家として評価される中江兆民も、群馬県の娼娼運動に対しては楼主側のブレイクとして暗躍したくらいだから運動は困難を極め、人権問題として捉える視点は日本全体に稀薄であった。現在でもこれは続いている。

娼娼運動の血と汗と涙の結晶であった売春防止法は、その精神において公娼制度との絶縁であったにも関わらず、風俗営業等取締法と公衆浴場法の間隙をぬって個室付浴場業（トルコ風呂）は法と行政に保護されて存続している。改正法案を国会に提出すること五回、未だ成立しないのは自民党の賛成をえられなからである。

脱税率96%というトルコ風呂業者李中錫事件の公判を傍聴して、売春法律や一介の運動で解決はしない。をはびこらせる構造の一端を知ることと根ははびこる。人間を人間として一千万円の政治献金をし、（正当な政治献金ではないのか、埼玉県連は入金否定し、李は領収証はもらってないという）現在も、明会計と称する会計簿を証拠として裁判官にちとる以外に途はないのである。

提出した際、裁判官より政治献金の項をたゞされ、証人の税理士は月額十万円ずつ三店からと証言している。全国のトルコ風呂店千四百軒のうち仮に千軒が月十万円ずつ提出したとすると年額十二億の大金となる。

業界団体である全日本特殊浴場協会連合会が法案阻止のため金集めをし、連合会が周知の事実であるが、はからずも裁判という公けの場で立証された。なお権逸民団議長は被告が民団にも多額の寄付をしたことを証言、他の証人は韓国にもたびたび金を持参したこと、バレー団訪韓費用を負担したことをいい、トルコ風呂業者の日韓のかかわりを浮彫りにした。この事件ではまた、国税庁が陳情の圧力にまけて不当に低く査定、衆浴場法の間隙をぬって個室付浴場元伊勢佐木署長が被告出資の警備会（トルコ風呂）は法と行政に保護の代表に就任、同県内の税務署員が退職してトルコ風呂の税理士を担当、トルコ風呂業界紙を自民党外郭団体員と共同経営したことなども明らかにした。

バイシユンの根は根深い。一片の李中錫事件の公判を傍聴して、売春法律や一介の運動で解決はしない。をはびこらせる構造の一端を知ることと根ははびこる。人間を人間として一千万円の政治献金をし、（正当な政治献金ではないのか、埼玉県連は入金否定し、李は領収証はもらってないという）現在も、明会計と称する会計簿を証拠として裁判官にちとる以外に途はないのである。

貴男のために
 国際結婚
 S・M・I センター
 国結
 は誕生しました。
 ●従順で心優しい台湾・韓国
 の女性と結婚しませんか？
 現在、S・M・Iには海の彼方より
 多数の女性(18歳〜45歳迄)が
 日本男性との結婚を希望してき
 ております。
 ●台湾・韓国の女性達は日本で
 いえれば明治、大正時代の日本女
 性の気持と考え方を保持する方が多
 くおり、国際結婚後幸福な家庭
 を築き上げております。

を求める男たち

く、と女性の更生問題と取り組むカトリックのシスター・ピネダは語っている。

政府としての売春問題に対する施策は弱く、特に観光局は、公的にはマニラに於ける売春産業の存在を認めない。しかし、その裏で、クラブやマッサージ業者対象の性病予防セミナー等を観光局共催で行なっている。戒厳令下での観光業が国の発展に貢献するとの政府側の見解に対して一九七八年の総選挙で、反対勢力ではつきりと観光売春の実態及び女性

への収奪を告発した。この選挙では
 アスピラス大臣が、ホテル業界及び
 観光産業業界の代表者を招集し、各々
 の業界従業員が与党側へ投票する様
 呼びかけ、反対側が勝利すれば観光
 事業は破壊される、と訴えたといわ
 れる。

フィリピンには、大きな広りの
 女性運動はなく、一般的には女性達
 の道徳的視点が売春婦に向けられて
 いる。売春問題を労働問題の立場か
 ら関わって多くの女性に面接してい
 る婦人青少年労働局のアドレー女史

は、觀光局の主張と真向うから対立し、政府がこの世界に外貨収入を期待する事を止めない限り、フィリピンに於ける売春の増加は終りを見ることは無い、と語っている。彼女は多くの女性達の相談、指導・助言をしているが、売春婦達のほんの一握りの女性が仕事に満足しているだけで、「この仕事は嫌い、辞めたい。でもとにかくお金が稼がなければ……これ以外の方法が無い。」と訴えている事に、この問題の困難さを痛感すると語っている。(解説編記 高里鈴代)

インドネシアの買売春

五島昌子

てくれてやっとな得し、それから毎晩さまざまな所へ連れて行つてゐた。

ジャカルタの賭博場には日本人の男の客がいっぱい。若い女性がそれとなく声をかけている。私の連れの男性にも声をかける。女性が一緒だということにつこり笑い、まるで屈託がない。海岸通りの公園に行くときにぎやかに声をかけてくる。彼女たちは食うために「働いている」のにそれをみに行くことが恥かしく、自分がいやになつてしまう。金を持つていい氣になつて女を買い漁る男たちと、それをみに行く私とどこが違うのか、とても直接話を聞く勇氣がなかつた。

しゃげている私に、学生たちがいろいろと話をしてくれる。買春の値段は、線路ぎわ五〇〇ルピア（二〇〇ルピア＝三三円）、ベチャ（自転車に物や人を乗せてはこぶ）の運転手相手五〇〇ルピア、ストリート（街娼）三千ルピア、売春地区は普通の人（？）の行く所で五千ルピア、一萬ルピア、ホテルの宿泊客は高級で外国人が多く、一萬ルピア、二萬ルピア。売春地区の女性のとり分は均

アジアにおける
日系ホテルの進出件数

国	9 件			
韓				
台	湾	1		
香	港	3		
タ	イ	2		
シン	ガ	ポ	ール	3
イン	ド	ネ	シア	2
フィ	リ	ッ	ピン	3
グ	ア	ム		8
ニュー	ヘ	ブリ	デス	1

アジアに進出する日系ホテル

宿屋が¹/₂、客引きが¹/₂で、ホテルではボーイに頼めばあつせんしてくれ
る。日本人客は金を持つてはいるが
いやがられている。やることが粗野
だからという。売春宿には現役の軍
人がボディガードとしてついている
売春宿に一度売られると逃げられな
い……などと。

彼らはいま、インドネシアの売春
全部に反対するわけにはいかないと

いう、それは貧困そのもののあらわれであるからと。しかし、女を買い漁る日本人に対して当然い気分であるわけではない、自分たちの意志表示をすることが政治的に禁じられているので黙っているが機会があれば抗議したいと夜更けまで話す。

在インドネシアの日本人の生活態度、インドネシア人に対するありようも問われているのだ。

アジアにおける
日系ホテルの進出件数

韓	国	9 件
台	湾	1
香	港	3
タ	イ	2
シンガポール		3
インドネシア		2
フィリッピン		3
グアム		8
ニューヘブリデス		1
サイパン		1
ババア・ニューギニア		1
フィジー		1

海外進出企業総覧
1980年版観光白書参照



旅行業者の内幕

ここにあげたのはパッケージツアー販売をする日本の旅行社と現地旅行社の中間に介在する通称ラウンド屋(旅行下請業者)が日本の旅行社に示した手数料払戻し条件の一覧表。ツアーを販売することによって日本の旅行社はいつの位、利益をあげることができるのか、そのすさまじい搾取の一端が伺える。まずナイトツアーについては、行先が台湾の場合、酒家の飲み代として

旅行者から取る一万円のうち二千元がKB(キックバック)払戻しの略)としてツアーを販売する日本の旅行社に渡る。この下請業者の場合、韓国では各コース共、妓生パーティー一回分を無料で提供という形でリベートを払い、KBはない。ショッピングツアーについては、儲けのうち30%(台湾)あるいは10%(タイ、フィリピン)が日本の旅行社の手に渡り、残りがこの下請業者、現地旅行社、土産

手数料払戻し条件一覧
セールスポイント!!

ツアー名	ナイトツアー	ショッピングツアー	両替	その他
台	①酒家 飲み代 ¥10,000 KB代 ¥2,000 花代 ¥40,000 KB代 ¥5,000 ②サロン(ナイトクラブ) 飲み代 ¥30,000 花代 ¥5,000 ③キャバレー(北投含) 飲み代 ¥20,000 花代 ¥10,000	総利益の30%	総利益の50%	オプションツアーが生じた場合弊社よりNETを提示し、貴社に販売価格は一任する
韓	妓生パーティー(韓国式宴会)は各コース共一回、無料サービス(本パーティー)KBは無し	KBは無し	無し	オプションツアーについては上記と同じ但し、2回目からの宴会は実費とする
タ	①サロン(高級クラブ) 飲み代 ¥30,000 花代 ¥10,000 ②キャバレー 飲み代 ¥15,000 花代 ¥20,000	総利益の10%	無し	オプションツアーについては上記と同じ スペシャルサービスとして、54年度中に限りツアー費を表記金額から20%ディスカウントします
フィリピン	キャバレー(高級) 飲み代 ¥20,000 花代 ¥10,000 枕代別 ¥10,000	総利益の10%	無し	オプションツアーについては上記と同じ

更に年間(1月~12月)200名送客頂いた旅行社には添付の和文タイプライターをサービス!!

成田空港はいらない!!

三里塚の農民から土地を奪い、多くの人々の血を流して作った欠陥だらけの成田空港。開港から三年目、一日平均二万人の乗降客を数え、五分に一回の離着陸を繰り返す、付近の住民に朝の六時から夜の十一時まで騒音をまきちらしている。

年々増加する観光客は、昨年(七九年)ついに四百万人を突破した。しかし表I・IIでもわかるようにその行先の大半は韓国と東南アジアであり、その八〇%がなんと男である。いわずと知れた「買春観光」に行く男たちの数である。その上最近では、インド、バングラディシュ、スリランカと広がっており、また、ネパールでは、ヒマラヤ登山に行く山男たちが現地で買春をしているという。こんな男たちを送りだすために、政府は羽田空港が狭くなったといって成田空港を作ったのだ。私たちはこのような買春観光客を大量に送り出す空港などはいらないのである。そのために私たちもささやかではあるが反対運動にかかわって来た。

私たちが三年前に、初めて空港阻止集会に参加した時、私たちはゼッケンに「キーセン観光客を送り出す

空港はいらない!!」と書いた。集会参加者の中には、奇異の目を向ける人々もいた。男の人たちには、ピンとこないスローガンであったためである。こうして、反対運動にかかわっている中で、私たちは耳にした。労組の活動家や空港阻止斗争を闘う男たちの中で、買春観光に行く人間がいるという。そうした男たちが人間解放を叫びながら、女の問題となると、いうことと行動が矛盾してきているのである。私たちの運動は、こうした厳しい状況にあるし、私たちも、したたかに運動をしなければならぬのである。(須田幸子)

資料・表I・IIの説明

表Iは受入国の発表した人数で、表IIは法務省が発表した日本人の出国人数である。ここで表Iと表IIを比較すると差がでてくるが、これは旅行者が何ヶ国も経由して、旅行するために差がでてくるのである。従って買春観光する男たちは、法務省の出国数より延数ではだいぶ増加するのである。

表I 日本人訪問者数(受入国発表)

年	インドネシア	マレーシア	フィリピン	シンガポール	タイ
1974年	36,799人	63,627人	147,812人	109,268人	132,660人
1975	36,659	61,121	192,169	118,668	146,986
1976	53,149	76,639	160,787	139,539	150,464
1977	53,680	111,012	213,222	190,611	173,988
1978	55,009	117,668	235,624	218,735	193,661
1979	不明	102,673	253,717	260,988	200,333

注: ASEAN各国政府(観光局)発表の統計による。

表II 日本人の海外旅行状況(1979年)

国名	1976年	1977年	1978年	1979年	男性	女性	前年比	男性比	女性比
総数	2,852,584	3,151,431	3,525,110	4,038,298	2,915,392	1,122,906	113%	72.2%	27.8%
韓国	403,654	447,519	499,537	526,327	493,100	33,227	105	93.7	6.3
台湾	434,240	482,832	557,627	618,538	565,223	53,315	110	91.4	8.6
香港	348,052	366,319	356,161	392,746	256,814	135,932	110	65.4	34.6
フィリピン	109,318	145,689	172,239	190,637	159,522	31,115	110	83.7	16.3
タイ	73,983	79,090	79,090	89,140	70,304	18,836	112	78.9	21.1
シンガポール	44,105	63,058	63,058	106,403	71,014	35,389	168	66.7	33.3
インドネシア	38,353	42,794	42,794	57,406	44,373	13,033	134	77.3	22.7
アメリカ	916,038	993,600	1,113,284	1,410,320	837,504	572,816	126	59.4	40.6
フランス	121,207	130,426	144,128	166,622	84,162	82,460	115	50.5	49.5
イギリス	84,245	86,398	87,820	97,295	57,659	39,636	110	59.3	40.7
西ドイツ	32,708	35,678	35,678	46,109	34,277	11,832	129	74.3	25.7
その他	246,681	278,028	278,028	336,755	241,440	95,315	121	71.7	28.3

法務省入国管理局・資料
売春問題ととりくむ会まとめ

初の世界観光会議 今秋マニラで開く 国連・世界観光機関(WTO)が主催

国連の専門機関として一九七五年に正式発足した世界観光機関(WTO)＝百二カ国加盟＝が、初の世界観光会議を今年九月二十七日から十月十日まで、フィリピンのマニラで開催する。観光振興のためのさまざまな対策を話し合うことが目的で、政府、国際機関、民間観光団体など約百五十カ国、数百団体から約五千人の代表が参加する大規模な国際会議になるという。日本は政府(運輸省観光部)が一九七八年に加盟したのをはじめ、国際観光振興会、日本交通公社、日本旅行業協会(JATA)、日本航空(JAL)が賛助加盟員になっており、日本政府も会議に代表団を派遣する。

買春観光など国際観光のマイナス面にも目を向けるべきだと、アジアキリスト教協議会(CCA)が、世界観光会議に先立って、九月にマニラでワークショップを開く。アジアの女たちの会も、買春観光関係の資料提供など協力することになっている。

物店の間で分けられる。その内訳はこの表からはわからないが、末端の現地業者に渡る分が非常に少なくなることはたやすく想像できる。また米ドル、日本円はヤミで売買すると公定レートより高いため、浮いた利潤の50%(台湾のみ)が日本の旅行社の利益となる。そのほか、台湾の場合は正規のルート以外の選択コース(オプションツアー)を客の要望によりアレンジする場合は、この下請業者がNET(純経費)を日本の旅行社に提示し、客からいくら取るかはその旅行社に一任するという形でリベートとしている。タイの場合は特に

「54年度中に限り、ツアー費を客に示す金額から20%割引いた価格で提供する」という形で日本の旅行社にサービスしている。さらに年間二〇〇名の客を送ってきた旅行社には和文タイプライターをサービスするというおまけもつけている。各旅行社によって中間に介在する下請業者、現地業者の数やリベート率が多少違っているということはあっても、東南アジアへのパッケージツアーはこのようなカラクリの上に成立している。(「婦人新報」一九七九年九月号の匿名による旅行業者の内部告発「旅行業者の内幕」より)。

アンケート調査

買春観光を生み出す意識

表Ⅰ Q. あなたはアジアの国で日本人観光客の夜の観光が問題となっていることをご存知ですか

知っている	90%	10%
-------	-----	-----

知らない

表Ⅱ Q. こうした旅行の経験を友人や知人からお聞きになったことがありますか

男	たびたび聞く	33%	聞いたことはある	47%	ない	20%
女	22%		聞いたことはある	41%	ない	37%

たびたび聞く

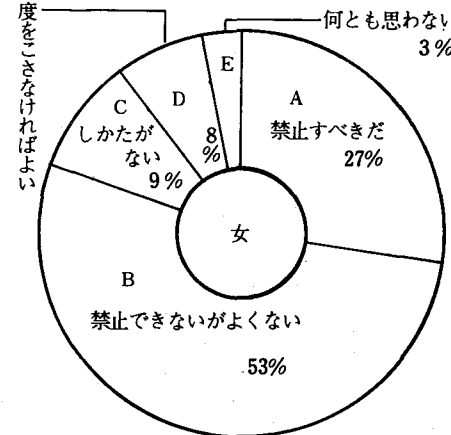
表Ⅲ Q. あなた自身はこうした夜の観光についてどうお考えですか

男	別に問題にすることはない	32%	よくないことだ	63%	回答なし
女	別に問題にすることはない	20%	よくないことだ	73%	回答なし

表Ⅳ Q. このような観光について次のような批判や感想がありますが、あなたのご意見に近いものはどれとどれでしょう。

番号	理由	男%	女%
①	男性の楽しみだからしかたがない	9	2
②	アジアの国は貧しいので身売りの女がいてそれを買う男が悪い	8	2
③	日本では売春が禁止されているから、男が外国へ出て行くのだ	10	5
④	日本では女性と遊ぶのにお金がかかるが、外国は安くてよい	5	1
⑤	日本のなかで遊ぶのとちがって、後くされがないからよい	9	13
⑥	男のつきあいでいく場合はしかたがない	7	6
⑦	外貨のムダ使いである	6	8
⑧	性病が日本に入ってくるのが心配だ	9	16
⑨	反日感情をおおるおそれがあるから自粛してほしい	34	35
⑩	他国の人々を蔑視し搾取する行為であり許せない	37	44
⑪	その他(回答ナシも含む)	17	22

表Ⅴ Q. 日本の男性がこうした旅行に行くことをどう考えますか



アンケートをした動機

私たちの反対運動にもかかわらず、「買春観光」はより巧妙な形でふえつづけた。「この事実に対し、ごく普通の日本人はどのような意識をもっているのだろうか?」「アジアに旅行した人達の目にはどのような映像が映っているのだろうか?」「買春観光をした人達の考えは?」運動の輪をひろげてゆこうと新たな一歩をふみだした私は、様々な疑問におつかつた。疑問をとく手がかりとして、アンケート調査をすることにしたが、事前に種々の困難が予想された。専門家でも「性」に関する調査はむずかしいとされている。

それでもなお私は調査することにした。得られた統計がより正確なものになろうとも、ある程度の事実は伝えてくれるだろうし、今後私達の意見を社会に訴えていくのに必要な戦略を考える手だてとなるであろうと信じたからである。

実施過程

私は手さぐりで調査表をつくる共同作業からはじめた。できあがった調査表には、なるべく無差別に調査対象を選別して欲しいという注意書をつけ、会員に2部ずつ送り、女

調査をしてもらえるように頼んだ。同時に、主として主婦の意識を知りたいということで、会員が住む団地三十代のカップルが多く、中間階層)で調査した。

総数27票(団地62票)、男女別内訳は、男性12人、女性8人である。これ以外にも、男性に頼んで買春観光に行った人達13人への調査をした。当初懸念したように、買春観光に反対する人々が積極的にアンケートに答えてくれたという結果が一部にあったが、それでも実像は浮びあがってきた。そして何よりも私達を喜ばせたことは、会員の調査者一人一人からコメントという形で貴重な示唆をうけたことである。調査表からきこえてくる肉声なるべく忠実に整理し、これを読む一人一人の参考にしてもらうことにした。

アンケートの分析結果

「買春観光」の実体はマスコミ、コミでどのくらい知られているのだろうか。この疑問への答えが表Ⅰ、表Ⅱである。表Ⅰの通り、買春観光の存在を知っている人が90%もいる。男女両方とも10人のうち9人は、何らかのメディアを通じて知っている。さらに直接、経験を聞いた人は、男性80%、女性63%に達し、日常的な話題のなかにはいっていることもし

めしている。

では実際に「買春観光」に行った人はどの位ののだろうか。全体的な数字は、別項でとりあげているように、アジアへ行く男性観光客の数から推測するしかないが、例として団地62世帯(男性22人、女性44人)を調査した結果、男性2人は、確認できないが、あきらかに「買春観光」の経験があることが推測されたし、夫が行っていると言った妻は2人いた。そこで「買春観光」について個人的な判断をきいたところ、表Ⅲのような結果となった。別に問題にするとはならないという男性が32%に対し、女性は20%である。ところが、団地の主婦のサンプルをとりだしてみると、別に問題にすることはないと答えた人は38%で、やや比率が高くなる。こういう判断の裏付となる意見は

どのようなものだろうか。表Ⅳにあるような理由を考えてみて、該当するものを選んでもらった。男女とも、⑨、⑩を選んでいる人が圧倒的に多い。特に、44%の女性が⑩の理由を選択していることは、同性として、事の本質を見抜ける感性をそなえているからであろう。しかしそれととも、⑤、⑬、⑧、⑬%を選んでいるのも、また女性であることも特筆に値しよう。表Ⅳについては、アンケートをとっている時に得た生の声

ともに後で分析してみたい。

それでは「買春観光」にどのような対処すべきなのか、という質問を女性達にぶつけてみて表Ⅴのような結果をえた。これによると、禁止はできないがよいという意見が53%を占める。男性に対しては、「あなたも機会があれば、こうしたアジア旅行に行きたいと思いませんか」と問いかけてみた。質問のしかたの不備もあったので、必ずしも正確とはいえないが三人一人は行きたいと答えていることもつけ加えておきたい。

以上のようなデータから「買春観光」に対する平均的日本人のイメージが、少しは浮んできたと思う。調査グループはデータ、調査体験、コメントに基づき整理した。

行く側の論理

行ったことのある人をサンプルとしてとりだしてみると、労働者、農民、会社員、教員、公務員、自営業など、職業、年齢も多岐にわたり、社会的な関心も深く、仕事熱心でいうごく普通の日本人男性達であった。買春観光をどう考えるかについての問いは、67%は別に問題はないと答え、33%はよくないことだと答えている。中には買った女性の年があまりにも若かったため、痛ましさを感ぜ、二度と行きたくないとい

う人もいた。私達が実際にインタビュールした例でも、自分のした行為に對して何らかのうしろめたさがあることが、ありありと感じられた。

「売春を女性たちのビジネスとして認める」現地の政府が奨励しているのだから「その国個々の生活習慣や道徳があるし事情がある」「女は買ったが、買春観光には本来賛同できない」「男と女の関係は常にギブアンド・テーク、互に相手の欲しがるものを与えればよい」「女に追いかけられて困ったので」「外国へ行つてあそぶという行為に興味をもつが、国の政策として完全になくせば、それにこしたことはない。しかし人生のうちの楽しい一日としてすごした。また行きたい」「現地に行くと女を買わないと可哀想だという雰囲気がありそれがいやだ」無論中にはこんなことを言う人もいる。「日本の女に比べてやさしく真意がある。別れる時泣かれたのが忘れられず、韓国には二ヶ月に一度いった。招待には女をつけるのが常識。キーセンという反対する女達がいるが、欲求不満のヒステリーだと思ふ。キーセンに直接会つて聞いてみたらいい。彼女たちがどんなに感謝しているかわかるはずだ」

なんと彼らの40%は、「男のつきあいでいく場合はしかたがない」とい

う理由をあげた。実際に旅行にさそわれて断わったり、一緒にいって女を買わなかったりすると、仲間はうれにされたり商売の取引がうまくいかなかったりするという。この事実は団体で共犯関係をつくることで相互の信頼をつちかうという、日本特有の社会構造を反映している。

許している側の論理

アジアに旅行した人達の感想で、買春観光にいく団体客を見て「飛行機の中は日本の延長とされているようで恥かしかった」「アジアの女性をさげすむ発言を大声でする」「優越感まるだしの横柄な態度」「日本人でも反日(?)感情をもつと思う」という非難が多数寄せられた。

アジアに旅行した男性ならば、日本語で「クニニヤン、一発」「ビョウキナイヨ」「オンナ、ヤッタ？」等卑猥な言葉でさそわれた経験がすくなくからずあるはずだ。自分に買春する気がないならば、人格を傷つけるような言葉とその状況をうみだした「買春観光」に、男達はなぜ怒らないのだろう。そしてこれら男達をおくりだしている女達はなぜ怒らないのだろう。男達の言葉。「男性観光客の大部分が夜の観光を目的の一つとしているが、あえてその人の前で批判する気にはなれない。野暮なことだ」「自

分には関係ない」

女達の言葉。「自分の主人でなければよい」「自分で決めて自分のお金を払って行くのだから、他人がとやかくいう必要はない」「自分の身のまわりでおきた考え方が別かもしれない」「それで利益になる人もあるのだからしかたがない」「どうもきれいごとはいえない」「日本の女の人で、夜の仕事にはいつてもみじめでなかったと聞く」「私は主人がしたら離婚してやるといつているんです」「他の参加者もそうらしいが、うちでも毎回でかける時は大喧嘩をする」

調査者のコメントを列挙する。「日本人は年齢を問わず、売春に對して罪悪感や恥の意識をもっていないのではない」「社内旅行に行つても、男性社員は芸者や酌婦と一夜を共にする。それは必要悪ではないか」というのが、二十代のOLの大多数の考え方だと思ふ。性差別、ゆがめられた歴史教育のひずみ等を考えさせられる「女性性は性の道具である、日本国内で売春が合法化されればよい等といった考え方が、二十代の男性のなかにもまだまだあるようです。同じ世代として残念」「買春を社会問題と同時に男女間の問題としてもとらえるべきである」「買春観光に出かける男性は女性そのものを蔑視しているのだから、それは国内に

おける男と女の問題でもある」「日本女性の「性」や「アジア」に対する問題意識の欠如を感じる」「同じ海外旅行でも、欧米へ行つたという時は顔つきから誇らしくなり、欧米崇拜、アジア蔑視を感じさせる」「バンコックがタイの首都であることを知らないとか、アジアの首都の名前や国名さえも知らない人がいる」「性病がこわい、国内よりあとくされがないからいいといったような妻という立場の利害でのみものを考える」「職業は?ときくと自分ではなく夫の職業を答え、旅行へいきましかたか?という

夫が行つたかどうか答えるといった夫と自分の区別がつかない」「夫が買春観光をしたというのを気がついて、家庭の現状維持のため問いつめたりしない妻達がいる」

「買春観光」が決していいことではないことだと、大部分の人が知っている。それがどうしてよくないのか、どのような社会経済的なそして「性差別」の背景があるのかということをはっきりいい、行く側の論理の詭弁をつき、事実を正しく伝えていく必要がある。最後に、「ヤル(JAL)」パックに行きたいけれど、東南アジアへ行くという女房が何しに行くか知っていて、許してくれないので行けない」というある男性の嘆き(?)を記しておきたい。

買春に送り出す女の状況

私達は、過去十年間の衰えるところを知らない観光買春の実態を捉える為に、意識調査をし分析を行った。買春観光は、端的には日本とアジア諸国との経済構造の格差によって生み出された現象といえる。しかし、買春を目的とする旅行者のほとんどが既婚者であるということは、日本社会での男と女の在り方にも買春を促す根源的なものがあることが推測される。

分析結果は、予測されたものであったといえる。一見、男女平等・人権尊重の憲法の精神が多くくの女性に對して確立されたかに見えるが、しかし、表面が豊かな消費文化生活に覆われていても、家父長制度の意識を温存したまま現在でも女性の状況は、潜在的抑圧状態にある。

抑圧を抑圧と感ぜない程に、高度経済成長の中で、女は、相変わらず経済的に優位な男との関係の中で、精神的自立も阻まれ、経済的・精神的に両翼の無い、主体的に生きる勇氣をもぎ取られた存在となっている。

怒れない女たち

アンケートによれば、どんな理由にしろ、買春観光を禁止すべきだ、

と強い反対をとなえる女性も男にも満たない(27%)。むしろ、平均的な女性の反応は、禁止出来ないがよい、と消極的である(53%)これは、現在の女性の状況から発せられた正直な声であろう。

妻の気持ちを踏みにじり公然と買春旅行に出かけた夫に對して、妻達はどんな抵抗をしているのだろうか。妻の怒りをはっきり示す為に、夫が旅行から帰って来たら、我が家はもぬけのから、となつてゐる事がどれ程あるだろうか。むしろ、煮えくり返る思いを抑え、夫を迎えると、夫は明らかに体験談をし、妻にも同じ様なサービスを求めると妻達は訴える。夫の旅行が回を重ね、年数回と習慣化し、一回ならずとも数回も性病を移された妻もいる。アジアの国々の女性からのラブレターが来て、国際電話がかかり、土産品を持っていそいそと出かけてゆく夫、それでも、多くの妻は生活費が手渡されている限り、愚痴はこぼしても怒りはないし、問題を直視して解決への行動を起さない。何故なら、どんなに精神的屈辱を感じても、経済的不安の方がより大きな恐怖となるからであり、破綻した夫婦関係であつて

も、世間の目に、離婚した女、母子家庭としてさらされるよりは耐え易い、との計算が働くからであろうか。確かにこの社会で、標準的家庭の規格からはずれ、母子家庭となり、自力で生活する事は非常に困難である。雇用機会の不均衡、男女の賃金差別、定年差別、更に、中高年婦人労働者の八割が中小企業に集中している事から来る、社会保険、労働条件の悪さなどの社会の現実を前にしては、真の怒りも呑み込まざるを得ないのが実態であろう。

最近の主婦パートの盛況は、「家計補助的低賃金労働者」としての雇用者側のニードと夫の配偶者控除を受けるとは年収八万円以内でよいという主婦のニードが現在の経済体制の中でうまく合致している為で、女性の経済的自立には程遠いものである。女の本命は家庭であり、家事と育児こそ女の幸せとする社会通念が、如何に根深く存在していることか。しかし、夫のひどい暴力から身体だけで逃れて母子家庭となった女性には、「素人歓迎、高給優遇、託児所、寮完備、衣裳貸出」の条件は天の声にも等しく、水商売の世界に吸い込まれて、昨日までの妻の立場から逃れて来て、今日から他人の夫たちへのサービスは職業とする。これは矛盾ではなく、これが現実の女の状況であ

う。

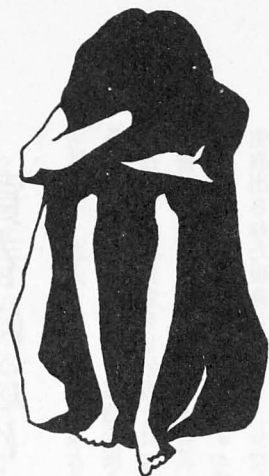
夫婦間の意識のズレ、価値観の相違が対等関係で存在するのではなく、経済的にも社会的にも責任を担う立場の夫が、妻に對して優位に、あるいは強者としての位置に立つのである。夫が自分で稼いだお金で買春に行くのだから、とやかくいう筋合いではない、という妻も多いが、妻の意識も完全に夫の立場に立つ事によって、むしろ家庭の安泰が保たれるのである。買春観光をこれ程までに繁栄させているのは、妻の夫への経済依存の関係が、精神的自立をさまたげ、それがさらに夫の優越性を助長させるという相乗作用が働くからといえる。

もうひとりの私

買春観光は当麻園内の売春状況の延長線上にある問題である。従来の「売春」では、特に道徳的倫理的な観点から、女性自身の性格傾向や資質が問われて、買う側、即ち男性は、「娼婦性」に惑わされる存在」として自己の立場を正当化し、必要社会悪論が男性及び女性を、手段化して搾取する側の通念となつてゐた。婦人団体及びキリスト者による運動の成果となつて、一九五八年、売春防止法が成立され、二二年後の今日もそれは現存している筈である。しかし、売春防止

法がザル法といわれるゆえは、買側の男性を不問に付した事であり、アジア諸国へこれ程までに明らさまに隊をなして「女性」を買いに群がる日本人男性の存在を目の当りにし、改めて、不問に付した事の重大さ及び、それが女性問題の根源的なものである事を示されたというのが現状ではないかと思う。

即ち、女性は、主婦的地位と売春婦的地位にまるでヤジロベエの両端の様に二つの性に分断され、家父長制、私有財産制の下で、一方は産む性を担う女として、他方は、享樂及び慰安的性を担う女として役割分担が位置づけられ、特に売春婦は、社会の規範に反した逸脱行為者として差別する考えは、同性である女性・妻たちにも伝統的に伝えられてきた。しかし、日本の歴史を振り返っても、娼婦と母性は、共にある場合は美化



source collective handbook

され、抑圧され、ある場合は手段化されて来た。貧農地方の娘たちが家族のために身を売る事は家族制度の中で美德とされ、手段化され、一方「富国強兵」策の下では、母性は産めよ増せよと美化された。

さて、売春状況についての前置きが長くなったが、アンケートに答えてある男性は、「日本の女に比べてやさしく真心がある。別れる時泣かれたのが忘れられない、キーセンに直接会って聞いてみたらい、彼女たちがどんなに感謝しているかわかるはずだ」と大変自信ありげに、自分の体験こそはお金以上の関係であるといわんばかりである。やはり男性は金で女性を買いながら、お金以上のものを求める身勝手さが現われている。

日本の男性が集団で殺到する台湾韓国・フィリピン・タイでは現に日本人客に対する批判は厳しく湧き起っている。女性達も、客となった日本人に日本語の代筆を頼んで手紙を書き、名刺をばらまいて、再来を期待している。しかしフィリピンで、多くの売春婦の働く状態について相談・指導するアルレー女史には、彼女たちは「この仕事は辞めたい、でもしかたがない、お金を稼がなければ生活してゆけない」と訴えている。

今年、東南アジアは、お米・砂糖き

びの大作になろうとしている。小作人農業の地方では、この干ばつで又、何人かの娘たちが、家族の為に都会に売春婦となって出て行くだろう。一九三四年大冷害には、東北六県で五万八千人もの女性が身売りや出稼ぎに出たという。まだ、五〇年前の日本の話である。しかしその当時、どれ程の女性が、妻たちが、女の状況に心痛めただろう。

「売春婦」を特殊視する前に、売春を生み出し存在させる社会的条件を究明する事であり、売春婦を社会の規範にはずれた逸脱者としてレッテルを貼ろうとする社会階級や権力の側にこそ問題があると思うべきである。

売春は、生活の為に売春をする事は、即ち女子の労働の機会の保障がなされない社会であり、男性に比べて、女性の社会的地位の低さをあらわして居り、売春状況の肥大化は、その社会の経済構造の歪みを物語っている。

一方、買春状況の肥大化も、反対の意味で、女子の労働権の保障がないことを物語っている。心身共に夫に依存しなくては「中流意識」にも浴する事が出来ない妻が、一度精神的に自立するとたちまち経済的に破綻してしまう。これは、他方の売春婦の様に「この生活(仕事)はいや、

でも自立(お金)出来ないからしかたがない。これ以外に道はない。」と訴えている事と一枚岩の様に重なるのではないか。

一方に妻が、他方にキーセン(クニヤン)が(「ホスピタリティーガール」)お互いを意識し緊張し合う、妻は相手を憎む、そして、商売女にはかなわないと一方であきらめ、病気だけは移されたくない自己を守る。しかし、二人の女はよくお互いを見れば、それが鏡に映った自分の姿だと気がつかないだろうか。女は歴史の中で、都合の良い道具として手段化され、分断され、そしてお互い争わされてきた。主体的に生きる事を求められて来た女の状況は、分断する者を見きわめる目も奪われている。

しかし、買春観光の実態を通して明らかになって来た事は、男性の集団行為を単に糾弾することからは何も生まれて来ないという事であり、むしろ、女の状況、主婦的地位、売春状況を生み出している源泉を冷静に見きわめ、他の状況に生きる者との連帯の中で、主体的な一歩を踏み出す事だと思ふ。

八〇年代こそ、七〇年代のアジアへの加担者の立場から自らを解放し、同じアジアの女たちと共に歩く時代を切り開きたいものである。

女性の人権と売春

沖縄から 金城清子

79秋期「女大学」11月21日



私が沖縄に行ったのは、沖縄復帰運動がたかまる中でアメリカが主席公選を認め、屋良朝苗さんの主席が誕生した直後だった。その後施政権返還、海洋博等々、沖縄の激動期に生活してきた。

沖縄はどんな所か。沖縄の詩人山之口猷の「会話」という詩に次のような一節がある。

(…)この僕のように、日本語の通じる日本人が、即ち亜熱帯に生まれた僕らなんだと僕はおもうんだが、(…)世間の偏見達が眺めるあの僕の国が、赤道直下のあの近所

沖縄に対する幻想的な、美しくあるいは悲惨なイメージの底に、日本人が生活しているということを強調したい。

沖縄では今もって売春防止法以前の状況の中で、女性たちが呻吟させられている。次の売春防止法違反事件は、一九七九年七月に起訴、九月に

判決があったものだが、その中に売春の実態を見ていきたいと思う。

売春の実態

K(47才)が四女性を管理下において売春をさせていた事件

この事件は、四女性の一人Aが、復帰直前Kから前借金をしてKの店で売春をしてきたが、七年間働いても前借金は増える一方で、遂に中二の娘(混血児)まで代りに差し出せとKから強要され、自力ではどうにもならぬと警察に訴え出たことで発覚した。

警察の捜査の結果、Kは四人の女性を売春させていた。営業していた店は、通称ヨシワラと呼ばれる沖縄市(旧コザ市)に近い売春地帯。オデオン屋、スナック、バー等が五〇軒ほど立ち並ぶ。一見バーの形をとってはいるが、後側が女給部屋が五つ並びベッドが置かれて、売春できる構

造になっている。沖縄は安く簡単に女が買えるという知識が公然とした事実としてあり、この一帯を訪れる男は女を買うのが目的である公然とした売春地帯。復帰前、米兵相手に営業していたのが復帰後もそのままの状態で、円高ドル安の時勢を反映し、客も米兵から日本人観光客、沖縄の人へと変わっている。韓国、フィリピン、タイ——東南アジアの国々と本土との接点に沖縄はある。買春観光は隣国の問題ではなく、日本国内で買春観光の対象になる地域があることを、まず認識してほしい。

四女性はKから前借金をして売春をしていた。前借金がどういうものかを、少し詳細に見ていきたいと思う。

前借金のからくり

A(36才)の場合：一九七二年復帰直前にKから五百ドル(一万五千五百円)借り、その日から売春を始める。腎臓病の子供の治療費の為に借金である。売春で得た利益の配分は、前借金がある場合は折半五分五分で、ない場合は女性七分、業者三分。業者の五分は不当だが、場所提供、前借金を理由に搾取される。更に女性が受け取る筈の五分も、前借金の返済に当てるという理由でKが勝手に取りしめる為、Aの手元に

そっくりは来ない。Aは生活できぬ為生活費として月七、八万円Kからもらうと、それが又前借金に回る。それでも一月後、借金は五万円に減っていた。ところが、Aは更に三〇万円借りていく。借りる必要はなかったが、KがAにお金を借りてくれと言ったという。Aの五万円の借金が終わればKは三分しか取れぬので、五分の利益を取りたい為に借金を強要したと思われる。自分としては五百ドルの義理もあるし、三〇万円借りましたとAは警察で言っている。

前借金は一月後には三五万円。更に、Aの身体の具合が悪いのと母親の病気の為三〇万円、翌年一月子供が病気で三〇万円、合計九五万円の借金をKからすることになった。一方、彼女が売春でどれ程の金になるのかというと、Aは正確にはメモを取っていないが、こう述べている。

「一日に二万五千円から三万円の水揚げがあったらう。一ヶ月に二〇日働くとして、最低五〇万から六〇万円の水揚げがあったのでは……」

Aの言う五〇万円を基準にして考えると、単純計算で七年間に四千二百万円という数字が出る。仮に折半を認めたとしても、二千百万円の利益で、借金の九五万円など問題にならぬ程の金額を、Aは売春すること

稼いでいるはずである。

ところが、今年四月Aが借金はど
うなっているかとたずねたところ、
Kからは二百三万円という答えが
返って来た。無くなっていると思っ
てたが、たまたまかえって増えている、
どうしたらよいかわからず頭を抱え
たとAは言っている。

B (35才)の場合：夫の薄給の為
の生活苦から、一九七六年頃から売
春を始める。一六才の女児あり。六
年間に五回人工妊娠中絶手術を受け
る。前借金なし。が、一九七七年五
夫の負傷の治療費生活費の為Kから
四〇万円借金、Kの下で売春を始め
る。一九七八年六、七月母親の病氣
で更に二〇万円借金。Kの要請によ
り合計六〇万円の借入証を書いた。

この事に対してBは、一年前に四〇
万円借りたが、その後いくらか返済
しているはず。が、それを追求すれ
ば二〇万円の借金がでなくなると
思い不問に付したまま、六〇万円の
借入証を書いて二〇万円借りた。と
言っている。これに対してKは、自
分のメモによれば、Bの借金は百二
七万円あると警察で言っている。

C (31才)の場合：石垣市生まれ。
中卒後農業の手伝いをしていたが、
バーで働く女性の服装の美しさに憧れ
て18才の時からバー勤め。沖縄市の
Aサインバー(外人相手のバー)で

働いていた時、周囲の者から売春の
話を耳にし、20才頃から売春を始め
る。他の業主からの前借金返済の為
に、復帰後Kから百万円借金。四年
程Kの下で働き、一九七六年頃他の
業者の下に移る。その時新しい業者
から百万円借りてKに返済する(こ
れをくらがえという)。移り先で二年
間働き三三万円借金返済、六五万円
になった時点でKから六五万円を前
借金して前の店に返し、Kの店へ再
び来たのが今年の三月。三月から事
件発覚までの四ヶ月間、月平均五、
六〇人の客をとっていたから、二三
〇万円は利益になっているだろうと
Cは言う。これに対してKは、借金
は百四万円あると警察で言っている。
以上の話をまとめてみると、

A：九五万円借りて七年前に二百三
五万円
B：六〇万円借りて七年前に百二七
万円
C：六五万円借りて四ヶ月で百四万円
と、それぞれ前借金は増加してい
るということ全くメチャメチャな
話である。

このように、前借金についての管理
売春では、働けば働く程借金がはね
あがる仕組みになっている。第一に、
業者の五分の利益と、様々な計算上
のごまかしによる前借金の水増し。
第二に、不慮の事故。生活費ぎりぎ

りをもらい、貯えのない女性たちが
病気になるれば、業者から更に借金を
せざるを得ない。

前借金は期間が長びく程多額にな
るという傾向は、復帰前の調査結果
にもその通りに現われている。

年齢	売春歴	最初の前借金額	現在の前借金額
32才	10年	10ドル	二千ドル
29才	10年	400ドル	九九〇ドル
34才	11年	600ドル	二千二百ドル
44才	13年	100ドル	千七百ドル
36才	17年	50ドル	二千九百ドル

前借金を有効とした近代法の陥穽

近代法では、金銭により人間を拘
束してはならぬというのが大前提で
ある。が、近代法の原則にもかかわらず、
現実的には前借金が人を縛り売
春を強要する道具になっている。こ
れは沖縄だけでなく、戦前の娼娼運
動にとり前借金をいかに崩すかとい
うのが大問題だった。

昔は売春に従事する女性を娼妓と
呼んでいたが、娼妓が廃業したいと
いう時、貸座敷業者は辞めてはならぬ
とは言えない、という判決は既に明治
二九年(二六六)に出ている。その後様
々な娼娼運動のたかまりの中で、女
性が娼妓になる契約をし売春をした
としても、廃業する事を業者は認めざ
るを得ない、という規則が三三年(二六
〇)にはできている。ところがこれは法
律上のことで、現実はそのようではない、

即ちそれを縛っていたのが前借金な
のだ。

法律的にどのような構成をとった
かと言うと、——あなたの所で売春
婦をして働くという契約と、あなた
の所でお金を借りたから将来返しま
すという約束、その二つは別々の約
束である。前者は公序良俗に反する
から、辞めたい時に辞めさせざるを
得ないが、後者は公序良俗に反さな
い、普通の金銭貸借上の問題である

——と、一契約が無効でも、借金返
済の約束には影響しないという風に
ずつと言ってきた。前借金を無効に
すれば、娼妓の親が前借金だけ着服
するような事にもなるではないかと
いうのが裁判所の理由である。

売春婦として働くのは近代法に反
するから、その契約は無効だと言っ
ても、借金は一括して返済せねばな
らず、又契約時には当事者のみなら
ず親とか親族とかが連帯保証人とし
て入っている為に、戦前、前借金は、
売春婦の人身を拘束する有力な武器
として機能してきた。

実に、明治二九年に娼妓の契約無
効を言い乍ら、前借金を有効とする
判決がくつがえされたのは、日本国
憲法が作られ売春防止運動がたかま
り、売防法が来年施行されるという
前年、昭和三〇年(二九五)十月一七日
であった。

復帰後にも存続する前借金

昭和三〇年に前借金無効の判例が
でき、沖縄の本土復帰による売防法
の完全適用で沖縄も本土並になった
のにもかかわらず、復帰後七年、先
程の事件にみられた状況が未だにあ
り、売防法施行前の本土と同様の現
実、つまり前借金をテコにした管理
売春という人身拘束、前近代的な人
権侵害の事実が今もって存在するこ
うなことを、認識して欲しい。

復帰後の売春は、完全に本土化し
た売春と、復帰前そのままの前借金
に拘束された売春とが同時に存在す
る状況で、売春の二重構造があるこ
とを言える。波の上という歓楽街では、
本土並化したタクシー、ホテル使用
の観光客相手の売春が行なわれ、若
い女性はトルコで働く。一方中年の
女性たちは、前借金のある、さびれ
たヨシワラのような所で売春を行な
う。ヨシワラの業者自体が零細で、
値段も安く客も下層の人々が多い。
先程のKなどは、ハンセン氏病患者
を客にとらせたりもしていた。

女性差別を許さぬ

人権思想の育成を

沖縄の売春で一番大きな問題は、
沖縄が三〇年間本土と切り離されて

売防法制定当時のこと

紀平梯子

’80春期「女大学」 3月19日



私が係わった範囲で売防法制定当時

の事をお話いたします。婦人議員、
民間婦人団体が当初希望した「売春
等処罰法案」が一九五六年に「売春
防止法」となって成立した、そうな
っていった過程をお話します。

法制定運動に拍車がかけられ始め
たのは一九五三年ですが、当時は日
本人全体の人権が戦争でもみくちや
にされ、後始末ができていない一方
で、一九五〇年の朝鮮戦争の軍需ブ
ームがおこるといふアンバランスな
時代、社会の荒廃の底辺にいたのが
「女」でした。一九五三年という年
は破防法を国会でゴリ押しで通そう
という動きがあり、反対運動のため
に婦人たちが国会へ押しかけた。と
ころが一般の人は院内通行バッジが
なくシャットアウトされました。そ
こで国会へのパイプ役として市川房
枝さんを推し、参議院東京地方区か
ら二位で当選しました。当選後の市
川さんの初仕事は売春問題で、秘書

の私も手伝うことになりました。

売春問題については、一九四六年
占領軍が「日本における公娼制度の
廃止に関する件」という覚書を発し、
内務省から警視總監及び地方長官
あて公娼制度廃止に関する件の通牒
が発せられ表向き廃止されましたが
実際は赤線青線として続いており、
一九四七年いわゆる勅令九号(進駐
軍命令による法律)はまことに不十
分なものでした。一九五二、五三年
頃までは、新憲法のもと民法の改
正はじめ婦人の法律制度上の解放が
行なわれ、たてまえとしては男女平
等になりましたが、「売春」に関して
は政府があたかも公認のごとく黙認
していた。これは民主化されたはず
の日本の恥ずかしい部分であったし、
女性の人権問題として耐えきれない
ことでした。議員は戦後誕生しまし
たが婦人の人権等の問題に関しては
超党派での活動がいまひとつ不十分
でしたが、一九五三年一月八日に

衆参両院の婦人議員団が市川議員等のきもいりで結成され、売春問題を取りあげました。当時たしか衆参両院で二四名の婦人議員が議席を持っていた。吉田茂第五次内閣時代で法務大臣は犬養健氏でした。

衆参婦人議員団が結成されてすぐ、民間の婦人団体とともに売春を悪とし、婦人の人身売買でもうける売春業者をほろぼしてしまおうという決意のもと立ちあがり、民間には「売春禁止法制定促進委員会」が結成されました。立法は国会で行なわれるのですから、院外の力を国会活動でいかに効率よく発揮するかが大切で、運動は、婦人議員団をエンジンとし、署名運動、男性議員の説得、街頭行動、集会等とつみ重ねられていきます。この当時ほど女たちの結集したことはないように思います。たくさん女の女たちが連日自分のお金と時間を使って国会へつめかけたものでした。婦人議員団は「第一六回国会に法案を出してほしい」と男性議員を説得してまわりましたが、女の問題に関して男は決して積極的ではない、裏ではお笑いの対象でしかなかった、その中で運動は動いたのです。

一九五四年に始めて衆参婦人議員団が話しあった超党派での「売春等処罰法案」が第一九国会に提出され

ました。現在の「売防法」では、売春をした者と斡旋をした業者は処罰の対象となるが、買った男は処罰の対象にならない片罰制です。しかし、この時の「堤ツルヨ案」では両罰となっていた、これが基本的に違う点です。「売春等処罰法案」の目的には「売春及び売春をさせる行為等に刑罰規定を定めることにより風紀の紊乱を防ぐとともに、婦女の基本的

人権を守り、もって健全な社会秩序の維持に寄与する事を目的とする。」売春の定義としては「婦女が代償を受けることを目的として不特定の相手方と性交することをいう。売春をした者、又はその相手方となつた者は、五千円以下の罰金又は拘留又は科料に処する。」で、「相手方」が入っています。売春及び搾取は悪である事を国の法律によって認めよと迫った法案だったので。この法案は第二〇回臨時国会まで継続審議と、なかなかかどりません。一九五四年という年は造船疑獄がおこり政治汚職きまるといふ社会の背景の中で売春禁止運動が続きます。

一九五四年八月二六日に鹿児島県で松元事件(松元事件)——松元荘という宿屋で土建業者が女子高校生を取り引きの材料に県議員に提供する——がおこります。それまで売春問題を婦人の人権の問題として

常にバックアップしてきた朝日新聞の社会部の記者の方がおられ、この松元荘事件を大きくとりあつかい、それが反響をよんでやがて国会を動かす力となりました。一九五四年二月一日、再び「堤ツルヨ案」を提出しますが、翌一月吉田内閣総辞職で法案は流れず。ここで運動の第一ラウンドが終了します。

一九五五年六月一日第二二特別国会で、衆参婦人議員団メンバーは各党をまわって男性議員の支持を集め、法案の提案者になつてくれとの作戦に出ます。それも社・共だけではなく保守党議員をたくさんまきこもうという方法をとりまします。そして提案者、神近市子他一八名、賛成者は保守系含めて八七名というたくさん賛成者を得、ジャーナリズムでも大きくとりあげられる中で、第二ラウンド「売春等処罰法案」を提出します。中味はやはり両罰制度で、これは提案者あるいは賛成者をたくさん出した民主党、自由党議員が反対の採決にまわるという信じられない事態により、一九一対一三三で衆議院で否決となりました。しかし否決した時に、民主党、自由党が世論をおもんばかって、政府に対して、審議会を作つて中味を検討し次の国会に提出せよという決議をし、決議案は採決され、やがて政府案が出る

きつかけになったのです。七月一日処罰法案採決の日、国会傍聴の傍聴券が委員長のサインもなしに売春業者の間に二百枚も乱発され、あとで問題になりました。二階を業者集団、一階を婦人団体が占め、お互いにけしきくらしあうなかで、神近市子さんが「業者の議員買収」の情報を述べるや満場騒然となるという状況でした。この日は雨でしたが、第二ラウンドは敗けで終了します。

しかし政府は、婦人議員案否決の時の決議にもとづき「売春対策審議会」を設け、会長に菅原通済さんがなり、民間からも委員が出て「売春等の防止及び処分に關する法律」の中味をどうするかという答申案がでます。この時から「売春防止法」となります。処罰して売春はなくならないものではあません。売春状況に女の人をおかないようにしようという意味での防止で本来はそうなのでしようが、防止としたことで売春業者の征伐という厳しい印象から逃げたような感じがします。目的には「売春等の防止及びその取締り、ならびに売春婦の厚生保護をはかることによつて婦女の地位及び福祉を擁護するとともに善良の風俗を維持し、もつて社会秩序の健全な発達に寄与するものである。」売春等の定義は「婦女が代償を受け、または受ける約束

で不特定の相手方と性交をすることという。たしかこの時までは、内容は両罰制度となつていたはずですが、一九五六年五月二日、第二四回国会に政府案として出されたのは、今日ある売防法の片罰制となつています。制度当時、保護厚生面の面はまことに不十分で、その後改正が行なわれてきたにもかかわらず、今もつて真の意味での防止の基本的な部分がとり残されています。しかし、政府が内外に向つて「売春は行なわれはならない」「女子の人身売買は悪である」ということを法案の中に盛つたという意義は大きい。しかし、それ以上ではなかったということですね。

先日、私どもの学習会で田中寿美子さんから、今日の売春問題はどこにあるかという問題についてお話をうかがいました。売防法制定当時と今日では、社会的背景や人間の意識が変わつてきています。そして昔とは違う形でやはり売春による搾取が行なわれています。売春問題は、婦人の基本的な人権の問題としてとらえられなければならないと思います。が、どうしたら本当にその人権が守られるのか、ということを考え、話し合いや行動の中でコンセンサスを得て行く、そしてそれを社会的政策の中へ入れていかなければならない。

時期だと思っています。一度決まった法律というものは、決まってしまうと一人で歩き出してしまいます。しかし、これを婦人たちの力でより良くして行くこともできます。立法に關する関心を若い人たちに一層持つてほしい。

具体的などらえ方で、法律、制度をみていつてほしいと特に若い人たちにお願ひしたいと思います。

もう一つお話ししたいのは、売春問題には汚職がつきものだという事です。売防法の刑罰規定の施行を延期せよという業者からの猛烈な運動があり、売春汚職議員の眞鍋儀十、椎名たかしの二名が特に活躍しました。汚職はばれて収賄罪が成立し、この二人は選挙で落ちました。

☆ニュース☆

会の機関誌七号でとりあげた「国籍法改正案」は、八〇年二月一日、社会党提案として衆議院に提出され、法務委員会に付託されたが、衆議院の解散によつて今回は廃案となった。

また、三月七日には、衆議院予算委員会が土井たか子議員が、無国籍児の簡易帰化手続き問題を取りあげ、帰化は現実には容易でないこと、そのため政府の補助の可能性について法務省定家民事務局長を追及した。

無国籍児と国籍法については外人記者クラブで土井たか子議員と銀治千鶴子弁護士が三月二二日、昼食会でスピーチを行なつた。

杉山悦子、さおりさんの国籍確認訴訟は五月十三日東京地裁で結審、秋に判決の予定である。

◆参考資料紹介◆

- | | | |
|--|---|--|
| 〈単行本〉
社会彫像論
魔姫ひとえ
ときよ、さよなら
夜よ、さよなら
あめゆきさんの歌
愛と鮮血——アジア女性交流史
敗者の贈り物
さよなら、再見
進駐軍慰安作戦
近代中国の苦力と「猪花」
性思想の名著12選
日本婦人問題集成9、人権篇
Tourism Blessing or Blight?
〈雑誌・パンフレット・論文〉
買春行為をゆるすな
売春・その歴史、その現状
どうして売春はいけないのか

婦人新報
女・エロス 9号「売春考」
現代のエスプリ 114号「売春行為」
潮 特集「娼婦にされた日本人の証言」
観光白書
ジュリスト増刊「性」——思想・制度・法
キーセン観光のいけにえたち

東南アジアにおける買春観光
マレーシアにおける観光公害

ルポ・百万名突破の観光韓国
ルポ・観光韓国

(他は二号参照) | 山室 軍平(1914)
久布白 落美
吉屋 信子
J・コルドリエ 谷口信・正子訳
山崎 朋子
山崎 朋子
ドウス 昌代
黄 春 明 田中・福田訳
鈴木 清一
可児 弘明
安田 一部編
田中 寿美子他編
Young, George

アジアの女たちの会「アジアと女性解放」2号
売春問題ととりくむ会 1976年
日本キリスト教婦人矯風会 1975年

日本キリスト教婦人矯風会 1976. 10, 1977. 3, 9, 1978. 4, その他ほとんど各号
社会評論社
至文堂
潮出版社

Lenz, Ilze (未発表)
ホン、イブリン(未発表)

沈 松 茂
呉 吳 煥

中川 信夫

有斐閣 1970年12月
統一評論 1979年9月

新東亜 1979年2月
新東亜 1976年7月 | 中公文庫 1977年
中央公論社 1973年

読売新聞社 1979年
文芸春秋社 1978年
三省堂新書 1970年
講談社 1979年
文遊社 1979年
番町書房 1972年
岩波書店 1979年
学陽書房 1973年
ドメス出版 1975年
Penguin Books 1973年 London

1972年5月

統一評論 1979年9月

新東亜 1979年2月
新東亜 1976年7月 |
|--|---|--|

活動報告

(1979年8月～80年6月)

- 1979年
8. 25～27 「買春観光」をテーマに合宿、於伊豆さつき会館
10. 17 女大学(買春観光をなくすために・1)〈心を売ること・体を売ること——売春の歴史を通して〉
講師 もろさわ ようこ
機関誌『アジアと女性解放』7号(特集・女と国籍)発行
11. 21 女大学(買春観光をなくすために・2)〈女性の人権と売春——沖縄から〉
講師 金城 清子
女たちは労基法改悪を許さないぞ! 11. 10集会 実行委員会に参加
実行委員会に参加
12. 16 女大学(買春観光をなくすために・3)〈キーセン観光と日韓癒着〉
講師 中川 信夫
学習会〈労基法改悪について〉
- 1980年
1. 16 女大学(買春観光をなくすために・4)〈戦争責任と買春観光——台湾の場合〉
講師 加藤 邦彦
〈蜚語〉上映会 共催
於・渋谷勤労福祉会館
韓国政治犯の釈放を訴えるハンスト
女たちの会より2名参加
於・東京・数寄屋橋公園
2. 20 女大学(買春観光をなくすために・5)〈買春観光の実態——フィリピンの人々から問われているもの〉
講師 高里 鈴代
会員・衆議院議員土井たか子氏国籍法改正の必要性についてスピーチ
於・外人記者クラブ
3. 12 女大学(買春観光をなくすために・6)〈売春防止法制定当時のこと〉
講師 紀平 俊子
「人民革命党」5周年を迎えて
韓国政治犯・家族を想う夕べを主催
於・東京渋谷・山手教会
4. 8 女大学(買春観光をなくすために・7)〈タイの農村と買春観光〉
講師 望月賢一郎
学習会〈環太平洋構想について〉
4. 12. 13 世話人会合宿、厚生年金スポーツセンター(世田谷区)
5. 21 女大学(買春観光をなくすために・8)〈南北問題としての買春観光——マレーシアからの告発〉
講師 松井やより
6. 18 女大学(買春観光をなくすために・9)〈欧米から見た買春観光〉
講師 寺崎あきこ
7. 16 女大学(買春観光をなくすために・10)〈買春観光と日本の家庭〉
講師 大島 静子

ひ
ろ
ば

前略、ちようどロスアンジェルスに学生として住んで一年になります。一九七八年東南アジアへ行ってみたいと思っから韓国、台湾、フィリピンと特に日本人男性がどんな所でどんなことをしているか知りたくて行ってきました。買春観光に関心があつたのと同時に東南アジア向けの団体旅行ではなかなか女性を参加させないふしがこの旅行社でも見うけられたからです。欧米へ旅行する日本人男性も勿論「女を買う」のですが、東南アジアにおけるそれは規模も方法もかなり違っているように思いました。(中略) フィリピン

(マニラ) マニラには当時7軒の日本人専門の「店」があるとか、そのうちいづみと言う店についていてもらつた。店には三十人位の女性が胸に番号のカードをつけてプラットフォームのように少し高くなつた所にブラツと並んでいて、男性が気に入った女性を指名して自分のテーブルに呼び、お酒をのんだりおつまみを食べたりして、自分のホテルへ来るようにと言います。話が成立すれば当時USで五五ドル。実際女性を受けとるのはそのうち一五ドル位だと女の子達からききました。(略) もっとも何か役に立つことがあればと思います。(芦田殉子)

一月にABCネットワークのニュースマガジンTV番組「20分の20」が日本男性のセックスの解放ぶりを報道しました。メインはアジアへの買春旅行なのですが、その前段として浮世絵、芸者さんのサービス、川崎堀の内、トルコ街、トルコ嬢のサービスぶり、ラブホテルの動くベットの紹介、そしてバンコックの街をバスで買春にくり出す日本人男性のグループ、番号札をつけたタイ女性たちや覗き窓の向うの女性たちを選んでいくところなど、かなり密着取材。CBSストーリーのレポートもこちらのキャスターもニヤニヤして日本男性の「性の解放」ぶりを紹介したと云つたのです。日本

は男性天国」という印象だつたそうです。放送後かなり話題になりました。外国人は私が日本人なので「ワ」イフたちはどう思っているのか」とか「今でもゲイシャハウスはあんなにポピュラーとは知らなかった」とかいったたぐいの質問を沢山されました。団体行動は一様に解せないといひます。(略)

(在ニューヨーク、坂元良江)

会費(年二千元)未納の方は納めて下さい。維持会費(月千円)になつて下さい。機関誌(3号・8号)を大いに売って下さい。置いて下さる本屋があれば頼んで下さい。みんなで会を支えましょう。

日本における売買春の歴史(450年史)

1979. 8 高里鈴代まとめ

年代	政治・経済・社会	年代	売買春問題を中心	売買春の歴史の流れ
1185	鎌倉幕府の成立	1193	幕府「遊君別当」設立	呼名を白拍子、遊君
1231	全国大飢饉、妻子等売る者多く続出	1528	「傾城局」設置。公娼制度の初め 遊女に官許の鑑札、年15貫文の税金	公娼 傾城 桂女(巫女)
1338	室町幕府の成立	1585	大阪三郷、遊女町	太夫 格子女郎 端女郎
1603	江戸幕府の成立	1589	京都、柳町の遊里	・私娼(1636～1656)全盛 (現代のトルコ?) ・飯盛女 ・茶立女
1616	幕府初の人身売買禁止令、年季3年とする	1593	京都所司代、遊女屋を3級に分け、賦金の徴集	※病死、傷害死、焼死等の 多くの女達が投げ込み寺 (浄閑寺など)に葬られる。
1639	ポルトガル船の日本渡航禁止(鎖国)	1617	元吉原町開闢——5ヶ条、以後全国25ヶ所に遊廓設置	
1643	田畑永代売買の禁止	1641	京の遊廓を六条三筋町から「島原」に移す	
		1642	長崎の丸山町、寄合町の廓承認	
		1656	元吉原町は御用地となり、新吉原町へ移る。(湯女、風呂屋200軒余りの取りつぶしを条件に入れる)	
1674	全国に水害	1664	1668 私娼禁止令——私娼500名公娼へ組み入れる	
1675	水害で諸国民困窮、長年季で替代名抱を認める	1672	沖繩、琉球王国、公娼制度スタート。尾類(ズリ)は中国の冊封使、薩摩の役人を相手とした。	沖繩
1868	明治新政府成立	1872	「芸娼妓解放令——牛馬引きほどの令」ペルー船マリ ア・ルース号事件を契機に太政官布告295号	尾類 三大娘 ・辻 ・仲島 ・渡地
1872	富岡製糸場開業	1873	貨座敷遊女規則及娼妓規則並芸妓取締規則を定む	1811年 公娼制度 公娼制スタート
1873	地租改正	1885	国内の不景気によりからゆきさん多くなり問題化	公娼制スタート
1884	経済不況、農村も不景気	1886	婦人矯風会発足	公娼制スタート
1885	日本初のストライキ(両宮製糸工場)	1891	群馬県娼妓令公布	公娼制スタート
	〔近代機械工業へ進歩〕	1891	海外売春婦引き揚げにそなえて、矯風会慰安館設立	公娼制スタート
1891	足尾銅毒事件	1896	戦後の好況の反動で不況	公娼制スタート
1894	1895 日清戦争	1896	大審院判決に娼妓の自由廃業を認める	公娼制スタート
1896	戦後の好況の反動で不況	1898	群馬県知事公娼復活を叫ぶ。娼妓議員によって追放される	公娼制スタート
1897	各地に米騒動	1900	函館の娼妓に大審院が娼妓取締の契約無効の判決	公娼制スタート
1900	治安警察法により女子の集会結社禁止	1900	宣教師モルフィー自由廃業の為闘う。熊本の東雲楼遊女	公娼制スタート
1901	八幡製鉄所創業、愛国婦人会創立	1904	製糸・紡績が不況のため女工が娼妓になる例が多くなる	公娼制スタート
1902	日英同盟	1911	「青柳」発刊。「人形の家」上演	公娼制スタート
1904	1905 日露戦争、金融混乱	1916	公娼禁止運動団体「廓清会」発足	公娼制スタート
1910	日韓併合	1921	プロリタリア婦人「赤潮会」発足	公娼制スタート
1911	関税自主権の確立。工場法公布	1921	海外売春婦取締り	公娼制スタート
1914	第一次世界大戦	1915	海外売春婦取締り	公娼制スタート
1915	対華21ヶ条要求に対し在南華僑日貨ボ イコット。労働争議逐年増加	1923	海外売春婦取締り	公娼制スタート
1918	朝鮮万才事件(三一運動)。戦後景気	1925	震災で新吉原遊廓焼失したが再興する	公娼制スタート
1919	朝鮮万才事件(三一運動)。戦後景気	1926	娼妓演説会、娼妓デー10万枚配布、街頭署名1万余	公娼制スタート
1920	経済恐慌。日本初のメーデー。国際連 合加入。	1927	廓清会と矯風会合同し、病婦連盟結成	公娼制スタート
1922	経済不況、性化	1927	「花柳予防法」発布。徴兵検査にて性病が22%もあつ たため。矯風会、退去命令を受けた日本人売春婦100人 救出にシンガポールへ	公娼制スタート
1923	関東大震災、朝鮮人、社会主義者虐殺	1928	埼玉・福井・秋田・福島県会、公娼廃止に関する連署書 提出。以降1936年迄に21県が娼妓決議を行なった	公娼制スタート
1925	普通選挙法公布、治安維持法公布	1934	東北凶作地の娼妓の身売り問題。1月～10月迄山形県 で売られた娼妓991人を救う	公娼制スタート
1927	金融恐慌、休業銀行続出。日本第1次 出東出兵	1938	日本陸軍慰安婦第1号、華中戦線に集める。敗戦までの 7年間に慰安婦5～8万人	公娼制スタート
1929	世界大恐慌、浜口内閣アフレ政策	1943	朝鮮婦女子が慰安婦として強制的に召集。敗戦まで約 10万人	公娼制スタート
1930	金解禁、農業恐慌——一般恐慌へ。			公娼制スタート
1931	満州事変、東北地方冷害			公娼制スタート
1932	上海事件(満州国建国)			公娼制スタート
1937	日華事変、南京大虐殺			公娼制スタート
1941	日米新安保条約。消費、レジャーブー ム			公娼制スタート
1945	ポツダム宣言受諾無条件降伏	1945	東京大空襲で吉原全焼1072人の中1/3の娼妓死亡	公娼制スタート
1945	ポツダム宣言受諾無条件降伏	1946	内務省占領軍向憲法施設設置指令により特殊慰安施設 協会を設立(RAA)。応募者殺到1360名採用	公娼制スタート
1947	児童福祉法公布	1949	GHQの寛容で公娼制度廃止命令、赤線・青線地域の設定	公娼制スタート
1950	朝鮮戦争起る	1951	山形県の身売り児童2500名	公娼制スタート
1951	サンフランシスコ平和条約・日米安全 保障条約、国際労働機構加盟	1951	国連「人身売買及び他人の売春からの搾取の禁止」に 関する条約決議	公娼制スタート
1952	日華平和条約。三白景気	1955	娼妓会他80婦人団体、公娼復活反対協議会結成	公娼制スタート
1954	通商協定(タイ)	1956	最高裁判所、前借金無効の判決	公娼制スタート
1956	通商協定(タイ)	1957	売春防止法成立	公娼制スタート
1958	日米同盟。賠償協定(フィリピン)	1958	施行	公娼制スタート
1960	日米同盟。賠償協定(フィリピン)	1964	トルコ風呂反対の動き各所に起るが野放し状態	公娼制スタート
1965	日韓基本条約批准。米、北爆開始	1966	主婦パートタイム就労増加	公娼制スタート
1967	日韓航空協定。資本自由化	1970	トルコ風呂地域規制公布	公娼制スタート
1971	沖繩返還協定。ドルショック。成田開港	1972	日本男性の海外買春旅行が広がる	公娼制スタート
1972	沖繩本土復帰。日中国交正常化	1973	沖繩の本土復帰、現行「売防法」適用、本土より15年遅れ 「売防法」とりくむ会」発足	公娼制スタート
1973	貿易自由化。変動相場制。石油ショッ ク。狂乱物価。企業海外進出盛ん。	1974	韓国金浦空港にて梨花女子大生、日本男性の買春ツア ー反対デモ。日本キーセン観光反対運動起る	公娼制スタート
1974	田中首相東南アジア歴訪。	1974	日本「キーセン観光に反対する女たちの会」結成、羽 田空港にてデモ。韓国、朴大統領選挙事件	公娼制スタート
1975	ベトナム戦争終結	1974	「南朝鮮侵略阻止——キーセン観光反対共同会」が松 江、出雲市のキーセン観光旅行団870名の渡韓を阻止	公娼制スタート
1976	日本の戦争賠償支払完了	1977	アジアの女たちの会機関誌2号「買春観光を許さない」 発行。台湾の旅行業者、日本の旅行業者(買春観光)を きびしく非難する意見広告「恥」という字をこぞです か」を長期掲載。	公娼制スタート
1977	福田首相東南アジア歴訪。	1978	東南アジアの女性、騙されて来日し売春強要される スライド「恥かしい日本人」上映(矯風会制作)	公娼制スタート
1978	成田新空港開港。			公娼制スタート
1979	サラ金問題続出			公娼制スタート
	東京サミット。エネルギー問題			公娼制スタート

性の防壁RAA

※1958売防法により娼妓
売春婦総数46,900名
23,672名——娼妓
8,549名——飯盛
5,429名——結核
但し、半数以上が売春
生活に戻った。

※日本男性による買春観光が、
1970年以降ますます盛んにな
り東南アジア諸国や韓国で問
題化する。
韓国・台湾・フィリピン・タイ
・南ベトナム・シンガポ
ール・インドネシア・マレーシ
ヤ・スリランカなど広範囲に
わたる。
※東南アジア女性、悪徳業者に
騙され来日し、売春婦として、
働かされる事件が多発する。

韓国の闘う人々にカンパを！

光州ではおびたしい血が流され、多くの学生・市民が銃剣の下に生命を失った。ソウルで、至るところの都市で、青年や知識人が連行され、その行方、生命の安全すらも分らないという。

すでに、春が来るかと思われていた韓国に再び厳しい冬の季節が訪れた。だが、人々は必ずまた立ちあがるだろう。

今、混乱の中にある光州の地で、病院には負傷者のための充分な医薬品すらすでに底をついたと報じられている。負傷者に医薬品を、家族を失った人々に慰めを、そして、やがて明らかにされるであろう獄中の人々にさし入れ品を！

私たちはかつて、七七年には、政治犯のために毛布のさし入れを、そして七八年には東一女子労働者へのカンパをと訴えて来たが、今、一度、民主化闘争のために支援のカンパを訴えたい。私たちの連帯の志を示すささやかなしるしとして。

送り先一振替 東京〇一四六一四

アジアの女たちの会宛

(韓国へのカンパと明記すること)

英文機関誌の編集・各行事等も同時進行していたうえに、思いがけないハプニングの連続。編集スタッフはこの二、三ヶ月、目のまわりの忙がしきで、共に仕事をしてくる過程で、様々な意見の相違がありました。その度、一人一人がぶつかりあひ、共感しあひ、そして編集後記を書いている今、私たちはお互いにもっと親しくなっていることを発見しています。ひたむきな女たちに出会えたことは、編集に加わって得た貴重な収穫の一つです。二、三の目次には、女たちは怒る、とあったのよ、今では怒れない女たちでしよ……とはMさん。でも、それが現実なのです。そして海の方へは、アジアの女たちの怒りがあります。今号が二つの世界を結ぶ小さな架け橋となれば幸いです。私たちがこれからはアジアの人たちの声を伝え、こめて語りつづけてゆきたいと思ひます。まだまだやらなければならないことは多いのに、日常の生活におわれている私たちの力はあまりにも微力です。長く遠い道を、私達と一緒に歩ませてください。共に語り仕事をすすめる新しい仲間をもとめています。(H.T.)

編集後記

'80夏の合宿

テーマ 「暮らしの中のアジア」
とき 8月30日(土)～9月1日(月)
ところ みやしろ山荘(箱根・明神平)
0460-213846
参加費 1泊四千五百円
定員 60人(子連れ可、会員に限る)
申込み 7月末、ハガキで五島まで
全国の会員が交流できる年一回の機会です。私たちの暮らしがアジアとどうつながっているか、学び合い、語り合い、80年代を考えましょう！

ASIAN WOMEN'S LIBERATION English Edition Now Available!

No. 1. Asia and Women's Liberation

Declaration by Asian Women's Association,
Human Rights in south Korea.

No. 2. Japanese Economic Invasion

in south Korea, Taiwan, and Southeast
Asia; Proposed Revision of Japanese
Nationality Law to give Japanese women
the right to transmit their nationality to
their children.

No. 3. Prostitution Tourism

Viewed from south Korea, Taiwan, and
Southeast Asia.

Price: Inside Japan No.1 - ¥300,

No. 2, No. 3 - ¥400.

Address(for Order):

Asian Women's Association
Poste Restante
Miyamasuzaka (Post Office)
Shibuya-ku, Tokyo, Japan

好評発売中

文物で語る周恩来

★中国図書の専門出版社

☎814-1992 株式会社 東方堂

★中国向けのPRなら

——翻訳から印刷まで

☎815-5677 有限会社 東方企画

東京都文京区小石川1-3-16 三田ビル

■亡夫・自衛官の合祀を拒否した妻の半生■

自衛隊よ、夫を返せ！

●田中伸尚 上製 四六判 160円 1500円

あるクリスチャンの妻が、亡き夫・
自衛官の自衛隊による一方的な合祀
を拒否し、裁判闘争を闘い抜く。

現代書館 東京都千代田区飯田橋4-6-1
電話03(261)0778振替東京2-83725